愛國婦人

毎月二回　五日廿日發行

發行所　東京麴町區(平ヶ岡公園)　愛國婦人發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　永持德一

定價一部金參錢五厘　一ヶ月金七錢半　年分四拾貳錢全圖　無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌各部禁轉載

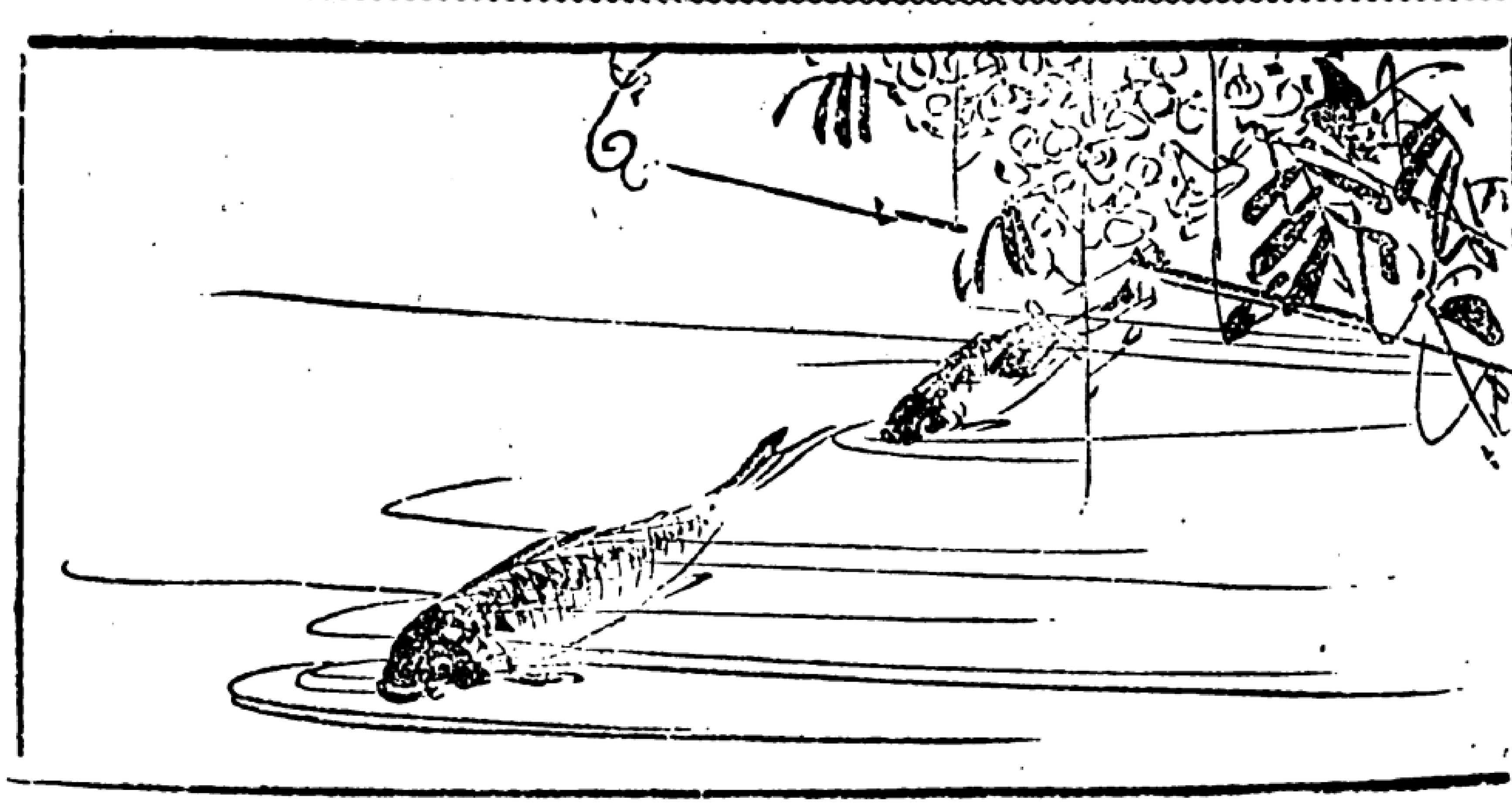
社説

氏

諺に氏より育ちといふことあり。こは素姓よりも、教育の力強きことを云へるものなるが、事實は必ずしも然らず、育ちより氏といひたき事、隨分澤山あるものなり。

日清戰爭、日露の戰爭に出陣せしほどの者は、誰れ彼れの差別なく、何れも勇ましき働きをなせる事なるが、中にも拔群の勳功を立て、花々しき討ち死をなして、これはと思はるゝ者を調べ見るに、士族出の者割りに多きを占めたりと聞く。左もあるべきことなり。士族は、武士の家柄にて、武士は日頃甲冑刀槍に親しみ卑怯未練を戒め、君の御馬前にて、討ち死するを、其本領と心得たる者なり。而して今の士族は、自らその武士たりし者か、或はその子孫にして、その家柄に對する自信と覺悟は、何時となく腦裏に浸み込み居りて、まさかの時には、その本領が發揮せらるゝなり。されば出陣に當りて、士族の子弟は、その親より、卑怯未練の振舞して、家名を汚すこと勿れと戒め勵まされ、本人もその覺悟にて戰ふが故に、いよ〳〵の時となりて、流石はと感ぜしむる働きをなすなり。こは氏のお蔭にて、氏が人に魂を入れたるものといふの外なし。

余は先頃郷里に歸りて、舊知の家を訪れたる事ありき。家は元は歷々の武家なりしも、今は落魄して、殆んど見る蔭もなし。されど主婦の挨拶擧動の、その衣服のやつ〳〵しきに似ず、如何にも上品にして、兎ても俄か出來の及ぶ所にあらず。見れば、長押には、槍と長刀を懸けたり。槍は主人の遺愛にて、長刀は、主婦が嫁入りの時、持參せしものなるべし。折しも雛祭りの頃にて、部屋の向には、雛を飾りたり。疊は剝げ、壁は破れたれども、雛は古雛にて品勝れ、毛氈も色こそ褪せたれ、質良きものにて、昔の樣も忍ばれて、ゆかしく思ひたることなりき。同じ長屋住ひにても、氏は爭はれず、他の井戸端會議の仲間とは、位が違ふなり。痩せても枯れても、氏は氏にて、その力はどこかに、人を支配し居るものなり。その反對に俄か紳士など呼ばるゝ成り上り者を見るに、これも素姓は爭はれぬものにて、成程屋敷も立派に、召使も多く馬車も豪勢なれども、何分に成り上りだけに、品といふものなく、言語擧動の間に淺間しく、いやしき所現はれて、沐猴の冠せりとは、是れなりと思はるゝものなり。家庭もこれに準じて、衣服飮食に贅澤も盡すだけにて、躾け、嗜みといふものなきより、殺風景、無作法千萬なることとなり。こはこれ迄がこれ迄なりし悲しさにて、富みも財產も、如何ともする能はざるものなり。



又學者として、社會に名を成せる人々を見ても、多くは、その親が儒者なりしとか、祖父又は伯父が學者なりしとかいふ來歷あるやうなり。獨り學者のみならず、他の方面に於ても恐らく然るべし。人物は偶然に出でず、必ずその由て來る所あり。教育の力の大なるや、論なし。然れども教育以外に、氏の與ふる教訓が人を感奮興起せしむるの力も、また甚だ大なるを疑はず。されば氏は忽にすべきものにあらず。そのこれを有するものは一家の至寶としてこれを尊重し、子孫をしてその精神上の感化を受けしむべきなり、折角の由緒歷史は、由緒歷史として教育上これを利用すべし。されどこはただ一家の中にて語るべきものにして、人人に誇りひけらかすべきものにあらず。唯氏や祖先を誇るの外、見るべきものなき人間は、たま〳〵その無能を表はすものなり。

もしそれ氏も素姓もなき者は、大に奮發して、自らその始めを作すべし。數代の後には、これが立派なる氏、素姓となり、各人が受くる教育と相待つて、人を作るの大なる力となるべし。氏素姓は、決して、今日普通に考へらるゝが如く、無力無意義のものにあらざるなり。

出版界の美擧

今同府鍋町二丁目に事務所を設けたる大日本文明協會に於ては、大隈伯爵を會長に戴き井上、石川、和田垣、嘉納、高田、坪内、上田、浮田、松井、眞野、三宅、元良の諸博士之れが評議員となり、國民知識の向上、世界文明の吸收を目的とし、世界最近思潮に關する政治、經濟、外交、教育、文學、家庭修養の百科に亙つて、此の目的に適する名著を飜譯し二ヶ年を期して、約五十卷三萬頁を出版して之を會員に頒布せんとするの企あり。今其の方法を聞くに、本書は非賣品とし、坊間に於ては發賣することを許さず、其の價格の低廉なることは普通書籍の半額にだも充たず、購讀者の爲めには頗る便宜を圖れること勿論にして、試に之を擧れば會員を通常特別の二種に別ち、通常會員は每月僅かに金二圓、特別會員三圓を納むれば之れが會員たることを得、而して希望者は入會金一圓と證據金會費一ヶ月分即ち通常三圓特別四圓を添へ申込みあれば可なるものなりと云ふ。今夫れ出版界を見渡すに、日に月に活版業者の手を經て、市上に現はるゝもの何と云ひ彼と云ひ、其の數實に汗牛充棟も啻ならず、然りと雖も果して能く世を益するもの幾何ありや、要するに多くは皆徒らに營利的に出づるものにして所謂一夜酒なるものに過ぎず、然るに今や此の如き計畫の出版界に現れたるは、亦是れ社界文明の一大進步と謂はざるべからず、但し會員の數は三千名を限りとしあれば、希望者は一日も速に入會せられて可なり。(尙ほ我發行所に於ては其美擧を賛し申込取次の勞を取るべし)

◉▽―注　意―△

▲本號掲載要目は次の諸頁にあり▲男女交際の心得――第二頁▲米國婦人の日常生活――家庭の和樂――第三頁▲支那料理法――大久保事件より得たる婦人の戒――第五頁▲懸賞圖案の當選披露――第十頁▲本號には附錄記事四頁を添へたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

男女交際の心得（上）

——婦人講演會にて——

法學博士 農學博士　新渡戸稲造

男女交際として第一心得べきことは昔の人も申しましたやうに、禮てありませう。併其禮も種々ありますが、先づ男子同士ならば兎も角も、御婦人の前に私共が出ますのには、衣服をフロックに改め、髪をチック位で美麗にかためて出たならば最も禮に適して居るのですが、決して私はフロックコートを持つて居ない譯てはないので、チックをつける法を知らぬこともないが、職務上非常に多忙て、今日も業務を濟して夫から直ぐ此會へ來る。風采を整る暇がない。併私は風采を整て時間を遲くれて來るよりは、御婦人方を長く御待たせするのが、交際上第一禮に缺けると思ひまして、此のまゝ参りましたのです。

さて此男女交際の心得と特別に申たのは、婦人も人間てあり男子も人間てある。それて互に其性が違ふ、其區別のある所から、殊更此問題を思考しなければならぬことだと思ふのてある。

近來は自然主義、自由主義などと色いろの名の下に男女交際が行はれて大分に亂れて居るやうに思はれます。禪學を深くやつて悟道した人は、極樂へ道行をすると云ふやうな交際の仕方もあり、又は自然主義と云ふ名の下に、之は人間社會てはなく、自然社會即ち動物社會て人間てない所の自然主義てある——お月樣、お天陽樣のやうに輝くことだと思ふよ、さうてない、犬だの猫だの、眞似主義てあつて、公然とワン／＼主義と云ふのが人聞きが惡いからてあると思ふ。種々と便利な名を拵らへて、男女交際の實が上る。さうして益々墮落して行く傾向があるのです。故に私も自然に鑑みて、この難問題を擇んだ譯てあります。さうてなければ人間の交際と云ふだけて御話をするのてありますが、わざ／＼男女と云ふ問題を出して御話する次第は以上のやうな次第てあります。

そこて男女交際するといふとは、元來天から命ぜられてある。例へば經濟の點から考て見て男子と女子と如何なる關係があるかと云ふことを知るも、なか／＼面白いことてあつて、農業の歴史を調べて見ると、男女經濟的交際と云ふものは、農業の基源てある。百姓の先祖は決して男子てなく婦人てあると云ふことは、詰り農業と云ふもの丶無い時分、男子は山へ行つて猪を獵つたり熊を射つたりして肉食を供給をして居る、ところが婦人は猪狩なぞは出來ない。昔希臘のアマゾン民族のやうに婦人が武藝をし、弓矢を持つて敵を擊つと云ふ位にまて、今日の男子の業務とする所を營んだと云ふことてありますが、之は例外てある。自然に適つて居らないので、一體婦人の形と云ふものは恰好の宜い大根見度いなもので、男子は人參のやうな形てある。中には隨分肩の張つた御婦人もあるけれども、大概は善く肥へて居るので、さうどん／＼山を馳けつたり、何か荒い機敏な動作をするのには、腰が重くて都合が惡い。そこて自然と肉食は男子が供給をし、女子は之を料理すると云ふ風になる。そして婦人は家に居て其邊の野菜なぞを摘むて供給する。之が即ち女子農業の基礎てある。男子と女子との經濟的關係といふのは斯う云ふやうなもので、分業の中に又合業と云ふものがあるのてあります。こう云ふことを考て見ましても男女の交際と云ふものは親しくしなければならぬものてあらうと思ふ。野蠻時代てない今日ても婦人の百姓は居りますが、大變今は其數が少なくなつて居ります。其他男女の經濟的關係は、彼の有名なるスタインの論じて居るのに、男子は生產的で婦人は消費的てあると云ふことてある。男子は工業なり商業なりに從事して、積極的に生產して居ります。婦人の消費的と云ふのは、男子が生產したものを、又どん／＼男子が消費する、即ち其消費を取締ることてあつて。襯衣なぞにしても男子は無精だ、成べく洗濯をしたり脱いだりすることは御免を蒙り度いので、着たら着流し、少し穴なぞがあつても、繕はないて放つて置く。それだから、直ぐ惡くなつて仕舞つて着られなくなる。女子はさうてない。六ヶ月て着られなくなる襯衣も之を婦人の保護の下に置くと、五年乃至十年もの長い壽命を保つことが出來るので、こんな意味から、男子は生產的女子は消費的だと云つたのてあらう。

爺さんは山へ柴刈りにお婆さんは川へ洗濯にと云ふ——爰だ、男子は決して洗濯は爲ないもので、女子が又山へ柴を刈りには行かない。婦人は何處までも、其消費取締りと云ふことになる。一社會、一國の經濟に取つては非常な關係を持つて居るものてあります。そんなやうな意味から男女の間には、只だ交際計りてなく大事な經濟的の關係があるのてある。又この經濟的の方計りてなく、今度は腦の發達知育の方から考て見ると、何んな關係があるかと云ふと——之は種々の說をして居るが、一寸云ふて見ると、男子と女子とは其腦髓が違ふ。或は違はんと云ふ。多分違ふだらうと云ふ。一向違はんと云ふ。この二說がありますが、人參と大根とが違ふやうに、或ひは違ふかも知れない。婦人の腦の働は確に早い。さうして演繹的てあつて、男子は歸納的てある。女は咄嗟の直惠が出るものてあるが、男はなか／＼さうてない女は人の顏を見る。あら彼の人は顏が變的古だ、嫌な人だ、と直ぐに結論をつけて仕舞ふ。が男子はどうして、なか／＼急には斷案を下さないので、下の方から漸々調べて——或は參考書なぞを見て、やつとあゝ彼の人は嫌な奴と結論するが、女は一目瞭然、直ぐに嫌だ——好いときめる。萬事がこう云ふやうな具合てすから、一方計りちや仕末にならんが兩方相俟つて行つたならば、誠に好都合なもの、又相俟つて行かなければならんものてあります。之は知能の方から云つたのてあるが、今度はもう一歩進めて、道德上の關係を言ふて見ませう。

當代百美選（六）

△春　渡邊審也氏筆

奥村五百子詳傳

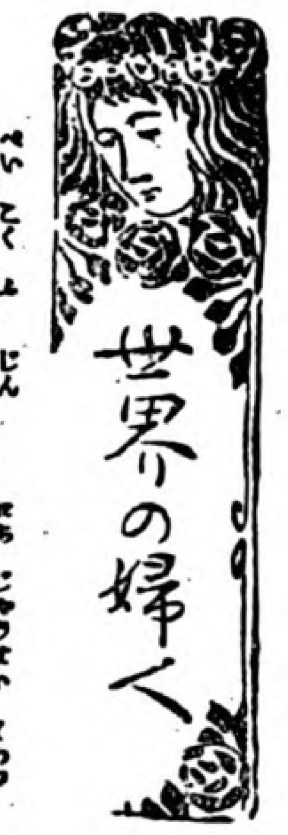
前々號にも一寸申上げて置きましたが、今度本社から發賣する奥村刀自の傳記は、一方から見れば婦人の立志篇とも成功談とも申せますから、家庭には必ず備へて置かねばならぬ良書て御座います。又一方から申せば、奥村刀自の行動は常に愛國婦人會の創設經營活動に伴ふて居ますから、これを讀むと愛國婦人會の歷史及將來に關する方針なども、よく判りますから、苟しくも愛國婦人會の會員の方々には、缺くべからざる參考書てあると存じます。まだ御求めにならぬ方は至急御申込下さいませ。最早殘部も極く僅かて御座いますから、其御つもりて願ひます。定價は金五十錢郵稅は金八錢併せて金五十八錢て御座います。奇麗な寫眞も澤山挿つて居て、文章は判り易くどなたにても讀めるやうに書いてあります。

△西洋夢判斷

▲芝居　芝居の中に坐はると見るは滿足の兆。
△喧嘩　喧嘩の夢は家内無事の兆。
▲花火　花火を見ると兒を擧げる。
△釘拔　慘苦の兆。
▲絹糸　出世大儲の兆。
△海綿　自分の客嗇を誡しむ。
▲蜥蜴　人の術中に陷る。

斯う云ふことを載せた書籍が下谷の博學堂と云ふ書籍店から出ました。定價は金十八錢。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



米國婦人の日常生活

私立櫻井女塾長　櫻井ちか子

米國中流社會の婦人が、如何にその一週間を生活して行くかを、一寸申して見ませう——。

日曜日

朝は大概六時か七時位に起きまして、食時は其家の職業とか何かで多少異いますが、大抵は七時から八時の間にいたしますが普通であります。朝の食物は極く簡單手の入らぬものでありまして——果物、ヲートミール、ホットビスケット、玉子、珈琲、少し奢れば肉を出す處もありますが、概して肉は出さぬやうであります。朝飯後は直ぐに會堂へ行く仕度をいたしまして、十時から十一時までには皆打連れて參ります。普通教會の集合は十一時てすが、日曜學校は十時から初ります。教會より歸りますのが一時頃て、其日は平常より御馳走をいたしまして、二時頃晝餐をするので、夕飯は大概教會の夕の集後、乳を飲むとか麵麭を喰べるとか位のことで此日は召使の者は皆正餐後は三時頃から、各々自由に何處へても行くことが出來る——就眠は大概十時か十一時頃てす。

月曜日

この日は洗濯日でありまして、一家の主婦から召使まで皆一諸に洗濯をするので、誠に忙はしい日なのてす。一週間分の汚物を洗濯するので、隨分數も澤山あります、シャツから襯衣からいろ〳〵集めましたならば、かれこれ一人て五十點位の洗ひものがありますから、どうしてなか〳〵の騷ぎてす。併日本の普通の家庭と違ひまして、洗濯所もチャント完全いたして居りますから、萬事手順よく運ばれますてす——この日の晝食は前日の御馳走の殘りものを集めまして作るのであります故に、この日を「搔き集め日」共申します。其家の主人公も之を知つて居りますから、別に小言も言はず、それを悅んで食べます。（別に悅もしますまいが）併しこの御馳走が却て平常の新しい料理よりも旨い時があります。

火曜日

この日は前日の洗濯物に火延をかける日でありまして、先づ大抵終日を費すのであります。されば、これぞと云つて申上げることも御座いません。

水曜日

この日は總べての燒物をする日て、麵麭を燒くとか、菓子を燒くとか、いたします。午前はかう云ふことて終りますが、午後からは、訪問をする、或は自分が訪問を享ける日としてあるのです。

木曜日

前日と同じく大概、訪問日にあてゝあります。如何に訪問日だからと云つて、朝から何もせずに、お作りをして、つくねんと訪問者の來るのを待つて居るとか、鏡に計り向て居るとか、そんな風なのてはないので、隙を見ては、靴足袋を編むとか、繕ひをするとかて、決して手を休めて置くことはありません。訪問時間は大概二時から五時の間てありまして、其から以前も以後も、訪問する人は餘りありませぬ。訪問の時間も大抵卅分か、長くて一時間位て長居をして、對手に欠伸を嚙みつぶさせるといふやうなことも、まあ、あんまりないやうであります。

金曜日

掃除の日でありまして、家中殘らず大掃除、大清潔法を執行する日てすから大概終日を費します。掃除のことて、一寸御話いたして置きますが、近來日本ても大分ペンキ塗を使用いたしまして、窓枠なぞや、其外細かい處に一寸使ふて居るやうてありますが、あれが又汚れますと、なか〳〵美麗にすることが難しいのてすが、あれを極く手輕く淸麗にいたしますには、西洋手拭の古いのなり又は何んても宜しい布に石油を浸しまして拭ふのてあります。大概のものはこれて美しくなります。又硝子は五十倍位の曹達水を作り之て一度手早く拭きまして後直ぐ乾いた布て善く拭きとりますと、大概の硝子板は美麗になるやうてす。

土曜日

麵麭菓子を燒きましたり、又日曜の用意をする日てありまして、この日は賣物の日と云ふのて、恰度、本邦の市のやうなものが出來まして、そこて安値のものを賣るといふやうな、詰り見切のやうなものてあります。てすから皆一家の主婦は午後から買物に出懸けるのてあります。之て一週間の生活は了つて居りますが、尙ほ一言申して置きますのは、米國て夕飯の御馳走と申しましても、さう澤山の品數を作るのてはなく、肉なり、魚なり、一種の分量を多くいたしましてそれに二三の野菜をつけるのてあります。其外の副食物、ジャミなり、ジェリーなりは、大概の家の貯蓄物としてあるので、秋に於て、丁度日本て總べての漬物をすると同樣に、果物を買ひまして、煮て幾色も作り、壜に詰めて、一々名前を附し、整頓して蓄へ置きまして、一年間朝夕の食卓を賑すやうになつて居るのてあります。

執着の程度（下）

編輯主任　永持德一

△執着を擲て

一家庭に於いて、父は飽まで我が主張を貫ねかうとする。母は母の主義のみを飽まで貫ぬかうとする。子は子の宜しきと思ふ處、孫も其の是と自ら認むる處を寸毫も曲げまじとする。斯く各自が主張する處に執着して、互ひに一步も讓らぬならば、各自に取るところの主張、各自正理であつたにしろ、その結果は何うなるのてあらうか。

『長ひものには卷かれよ』と云ひ『老いては子に從がへ』と云ふ。仲々巧い眞理を簡單に述べたものてある。かゝる場合に一家の長上者は、この『老ひては子に從へ』の眞理に基き、飽までも其の主張を全部に執着すること無くして、一部の主張を曲げねばならぬ。さなくば、遂に家庭の和樂は保たるべくもあらぬのてありまする。

子にしても無論、左樣てある。よしんば、其の主張するところ、子として全く正しき道てあるとするも所謂『長いものに卷かれよ』と、その一步を讓り、その執着を擲たねばなりません。斯く一家の首長は首長て『老ひては子に從よ』の眞理を守り、その執着を捨つる。子は子て『長いものには卷かれよ』の主義に則り、その執着を擲つ。既てに、これが完全に出來得られれば最早よろしいのてある。家庭の和樂は必らず保れるのてあります。

△無執着は不可也

斯くは申すものゝ、同じ各自の執着を擲つにしてからが、自ら程度と云ふものがある。

假りに釋迦が、その執着をば、全く、現世からと同時に來世から擲つたならば何うてありましやうぞ。無執着、これ自殺てありまする。此の執着の程度こそ、家庭を樂しくも又たは不愉快にもさせる基點てあらうと思はれまする。

私の信ずる處は大體斯樣てあります。以上は眞の抽象的の方面ばかりて、更に具體的の議論は述べませんてした。が、更にその方面に渡つて述べるのには、未だ〳〵仲々の長談議に渡る倶れがある。てすから、一先づ此の邊て御免を蒙ることに致します。（をはり）

◉船來品に優る高等のオペラ香水は發明せられたり
◉オペラ香水は香氣高尙無比にして耐久力に富み紳士貴婦人間に高評を博し愛國婦人諸姉の御愛用は殊に盛なり

右中瓶の外大瓶定價壹圓八十錢小瓶四十錢　懷中瓶廿五錢
久邇宮妃殿下賜御買上之榮
松方侯爵家御愛用
東鄕大將邸御愛用
伊東元帥邸御愛用
高崎御歌所長邸御愛用

右小瓶の外大瓶定價五十錢中瓶卅五錢
◉オペラ香油は和洋香油中の最進最良なるものなり
◉オペラ香油を愛用せらるるときは芳香芬々百花頭上に笑ふの想ひあり
◉オペラ香油は髮の汚れる憂なく色澤を增し發育を助け癖毛を正すの妙効あり

本香水香油發明の目的は外入品を防遏して國益を裨補するにあるを以て愛國婦人會諸姉に對しては一割引無料送品の特別扱法の設けあり故を以て御注文甚た盛なり

發賣元　鳳舞園
東京日本橋區米澤町一丁目一番地
電話浪花四〇三九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國心

伊太利　フオガザロ原著

第一章（三）

『夫人は恐しく驚いての』巴素人は苦笑したのである。此間に副牧師は幾度か叩頭きつ、且つ馬留母厘夫人に向つて、優しげに打ち笑んだのであつた。が、夫人は此の新來肥大の人を一見すると諸共一層の畏怖を感じたのであつた。夫人は宛然、他の人々の、彼女よりも一層聾者であるかの如く、切りと靜かに種々の手眞似を初めたのである。彼女は湖水を指し、帆を指し、布里亞の牧師の圖拔けに大きな體軀を指し、その兩眼を空ざまに向くるよと思へば、その雙手にて彼女の面を掩ひ、或ひは雙手を胸の邊に推し付けつゝ、切りに身悶へするのであつた。

『拙者は格別重いことも無いのでは御座いまするが喃』と、副牧師は打ち笑つた。『まゝ、お待ちなされ。お待ち下されませんかな。』と、彼は云ひ添へつゝ、濱の方を振向いた。すると、濱は如何にも可厭々々しげに打ち呟いて居つた。

『圖拔けに大きな魚だわい！』

『何うして彼女の畏怖を療して好いかを話さうかの』巴素人は叫んだ。

『濱よ、卿は小卓とタロッチの繪札を一揃持ち居るかの？』

『持ち居りまする』濱は答へた。『が餘りに脂染み居りまするて。』

一同は馬留馬婆夫人――一般には馬留母厘と呼ばれて居る――に、その手にして物の說明をするに、太くも骨を折つたのであつた。彼女は其の良人が彼女の手に垢じめる繪札の一組を推し付けた時すらも、未だ其の如何なるものなるかを解し得なんだのである。

が、併しながら、目下の處、遊戲と云ふことは問題外であつた。渡船は棧、厤米登の河口へと力を籠めて推し出されたのである。帆は此處で引き揚げられ得べき筈である。岸打つ浪は寄せつ返しつ、小さき渡船は、渦卷き立てる浪頭の彼處此處に推しつ推されつ進み行くのであつた。夫人はさめ／＼と泣いて居る、巴素人は濱に對して巴素人は何やら誓ふて居つた。濱は未だ充分湖心まで得漕がぬのであつた。遂に肥太れる副牧師は棧を手にした。その偉大なる體軀を確と渡船の中央に据えつゝ、宛然、その一漕にて船を前方に推し出し、困難の域より救ひ出され得べく身構へたのであつた。帆は引き揚げられ、渡船は靜かに滑かに徐々に動きつゝ進み出でた。と、見るや微笑める僧侶は馬留母厘夫人の側に坐つたのである。夫人は此の時、その兩眼を閉ぢて何事をか打ち呟きつゝあつたのであるが巴素人は如何にも堪え難げに、手にせる繪札もて机を打ち敲いたのであつた。彼等は是非とも勝負を始めねばならぬ。

かゝる間に、灰色を帶びれる雨は四圍の山を包み、湖面を包みつ、瀟瀟として降り出でたのであつた。

夫人の呼氣遣ひは、風の氣勢の減ずるに伴れて、次第に常態に復し來つた。

滿都の人氣を聚めし傑作

完結!!　前編既刊　實價五拾五錢　郵稅六錢
後編新刊　實價五拾錢　郵稅六錢

伊原青々園氏著

寶息子

東京日本橋區通四丁目　春陽堂新刊

買物をして利益を得る法

買物をして利益を得る法！　はて、何でしやう。此の不可思議の方法は今度我發行所から發兌さるゝ『愛國叢書』の第一篇『女德論叢』に出て居ります。『女德論叢』は一部實價二十六錢、郵稅金四錢都合金三十錢です。發刊は六月上旬。但し五月二十日まで前金で右『女德論叢』の代金三十錢を拂込まるゝ方々に限り、此の不可思議な懸賞に應じ三十錢の書物を買つて五十錢の『奧村女史詳傳』若しくは『主婦の職分』等を、『女德論叢』と共に無代で得られる特典があるので御座います。

買物をして利益を得やうと思はるゝ方々は、五月二十日までに、前金三十錢をお送り下さい。

衣服の色の配合（下）

妹脊山のお三輪。之を掇て次には紫を着たが後には黑餠をつけた淺緣、これも始めは弱い粗り少い田舍女といふ意味が最も能く顯はされた△婦人服の色も大に此意味と感じを利用せればいかぬと思ふ△婦人服の色の配合は非常に個人的で、日本流の狹い室に居てこそ引き立つが、大集會の折には一向引きたゝぬ。例へば赤と黃の市松染は近く見れば奇麗だが、遠く隔つと黃色としか見えぬ。其他緣と黃は緣になるから此邊を大に勘考を要す△日本では庭園が發達して居るが公園が發達せぬと同じ道理で、何かにつけ個人的で團體的に出來て居ないので衣服の色のみを責める譯には行かぬ△夫から或色は或色に呑まれることがある。紫の朱を奪ふといふ類で……。所が昔からの習慣で御婦人が紅絹裏を使ふことになつて居る、是は折角意匠を凝した色合でも裏は紅絹、下衣の裏も絹紅、襦袢も紅と來てるから、歩行の際始終紅が外の色を呑んで仕舞つて紅計り目立つ。これも餘程用心せればいかぬ、裏は紅絹と云ふ惡習慣をやめて何か改良を加へて行く餘地があらう△帶は身體の中央に位して居るので、色の配合は全力を盡くして意匠を凝されねばならぬ。又顏と衣服の中間にある襟も無論のことです。又自分の小さい時に黃い扱帶をやつたから、御孃さんも黃い扱帶をやらせるといふ遺傳的習慣を守る場合が多いやうだが何も黃に限らぬ。改めた方がよい△以上は去月大日本婦人教育會の例會の席上管原文學士の演說大要であります。

◁今年の暦▷

五月（大）
May.

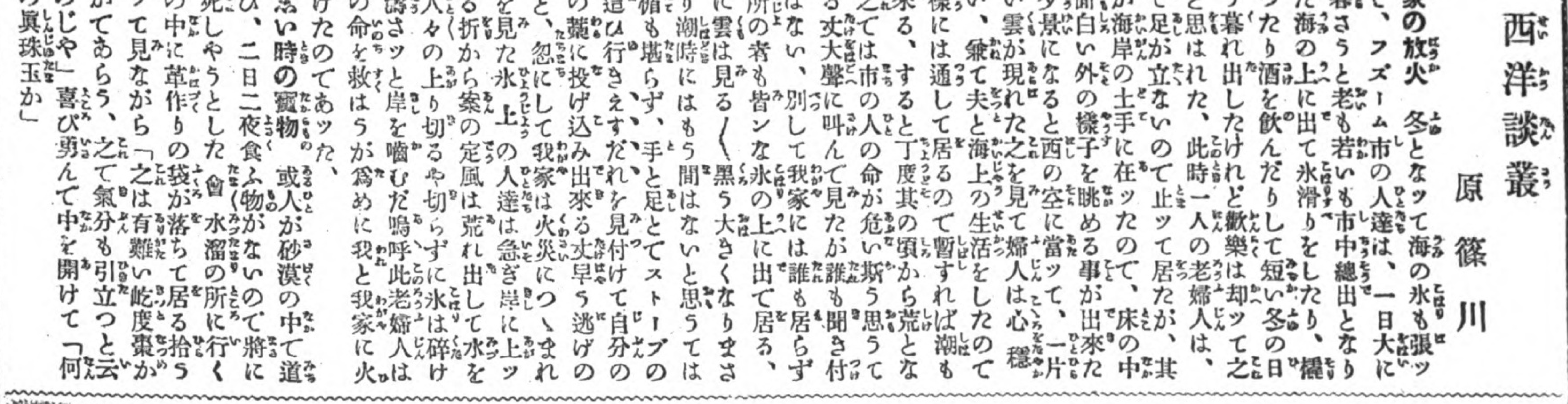
日 S	..	3	10	17	24	31
月 M	..	4	11	18	25	..
火 T	..	5	12	19	26	..
水 W	..	6	13	20	27	..
木 T	..	7	14	21	28	..
金 F	1	8	15	22	29	..
土 S	2	9	16	23	30	..

西洋談叢

原篠川

我家の放火　冬となッて海の氷も張ッたので、フズーム市の人達は、一日大に遊び暮さうと老も若いも市中總出となり凍ッた海の上に出て氷滑りをしたり、樏に乘つたり酒を飲んだりして短い冬の日はもう暮れ出したけれど歡樂は却ッて之からと思はれた、此時一人の老婦人は、病身で足が立たないので止ッて居たが、其の家が海岸の土手に在ッたので、床の中から面白い外の樣子を眺める事が出來た所が夕景になると西の空に當ッて、一片の白い雲が現れた之を見て婦人は心穩でない、兼て夫と海上の生活をしたので空模樣には通して居るので暫すれば潮も出て來る、すると丁度其の頃から荒となる、之では市の人の命が危い斯う思うて出來る丈大聲に叫んで見たが誰も聞き付る者はない、別して我家には誰も居らず隣近所の者も皆ンな氷の上に出て居る、それに雲は見る／＼黑う大きくなりまさる許り潮時にはもう間はないと思うては矢も楯も堪らず、手と足とでストーブの所に這ひ行きえず、だれを見付けて自分の寢床の藁に投げ込み出來る丈早う逃げのびると、忽にして我家は火災につゝまれた之を見た氷上の人達は急ぎ岸に上ッて上る／＼折から案の定風は荒れ出して水を増し人々の上り切るや切らずに氷は碎けて怒濤さッと岸を嚙むだ嗚呼此老婦人は市民の命を救はうが爲めに我と我家に火を放けたのであッた、

饑ゑい時の寶物　或人が砂漠の中で道に迷ひ、二日二夜食ふ物がないので將に飢ゑ死しやうとした時水溜の所に行くと砂の中に革作りの袋が落ちて居る拾うて觸ッて見ながら「之は有難い屹度棗か胡桃かであらう、之で氣分も引立つと云ふものじや」喜び勇んで中を開けて「何て眞の眞珠玉か」



めりんす友染の形がよくて大安賣する　おなじみの日本橋區人形町通り赤のれん　おばたやにて本年は中形おゆかた地を製造元と特約いたし實に目のさめる樣な頗る粹き向きな新柄ばかり取揃へ賣始め申候間御らん旁々御光來の程願上仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理の栞

支那料理法

成女學校講師 津川千代子

●炸丸子

材料豚肉五十目 ○生姜一個○醤油一勺餘○うき粉又はかたくり粉茶飲茶碗半分○ラード又はヘット

豚肉をこまかくたゝくかまたは挽肉にしまして、生姜の皮をむき、極めて小く微塵に切つて肉を交ぜて、其中に醤油を入れて、うき粉またはかたくり粉を水でかたく溶いて肉の中に入れ、手にてよく混ぜ、まるく玉のやうにして、お團子位にまるめ、そしてヘットかラードのよく煮たつたところに入れて樺色になる位までにあげます。それからそれを新聞紙の上にとりあげて、油氣を吸ひ取らせます。此を一人前に五つ六つ位宛もります。此は少しも豚のやうではなく、豚のにほひもなくなりまして、豚のきらひな方にても極めておいしく食べられるものであります。

一口噺

頑白なる男の子姉に向ひ

子「姉さん、一羽の鳥ても鷄といふ其の譯知つてゝ？」 姉「エヽ、知つてますとも」 子「それじあ、云つて御覧！」

姉「それではネ、武夫さん。貴方、一つ光明ても、燈明と云ふのは何故てすの」

（廣島 金原 なを子）

○

芝居好きの奥樣

「あの、檀那、三河屋の仁木は隨分澁いてしやうね」

と、話して居るを聞いた嬢さん

「あら、嘘よ、お母さん、につきは辛いんじや有りませんか！！」

（堀川 桑田 すみれ女）

婦人の戒 大久保事件より得たる

梅村生

花は將に微笑まうとして、人はそゞろ春の氣に醉ふべきときとなりました先つころ、私どもをして戰慄せしめたる一事件が發生いたしました。申すまでもなく大久保に於ける慘殺事件であります。既に犯人も捕へられ、世人幾許の安心すべき時となりましたが、其當時は其界隈、晝尙ほ陰森として鬼氣人に迫るの感がありました。

其犯人の憎べき事は申すまでもなく、被害者の家族の無念察するに餘りあるべく、殊に幸田えん子の身に思ひ到ると、私どもは今尙ほ酸鼻の情に堪へられない次第であります、而し事は既に過去となりて、其の事また如何ともする事能はず、たゞ眞に氣の毒の事であつたと云ふより外に云ふべき言葉を知らないのであります。

しかも靜に考へますれば、また大なる教訓を天が我が同胞婦人に下したのではあるまいかと思ふのであります。か弱き一人の婦人を犧牲にして、天下の女子と云ふ女子の戒としたのではないかと思ふのであります。つら〳〵近頃の婦人の態度を觀察しまするに、其擧動の不用意なる事は、實に其極に達したりとも云ふべき程であります。私どもが日既に暮れて町を行くに獨行の婦人に逢ふ事決して一二てなく、殊に夜更けて歸る途中に於いても決して一人の婦人に逢はなかつたと云ふ例ないと云つて差支へないのであります。とにかく此が良家の子女、地位ある人の奥方のなさるべき擧動として許されませうか。實に其自己の不謹愼なる事は云ふまでもなく、其家庭のしだらなさも思ひやらるゝのてはありませんか。

西洋文明諸國の婦人が外出する際には、必ず相當の保護者たるべき人を同伴すると云ふ事であります。其用意は至極な事でありまして、移して我國婦人の模範とすべき事でありませう。從來日本婦人は、其歷史的習慣として、常に室に籠りて外出する事甚だ稀なることでありました。其人の妻を呼ぶに奥樣と云ふに至つたのは、甚だ遺憾な次第であります。

外出をし、交際をし、旅行をもして、見聞を廣くすると云ふ事は、婦人の自己を修養するに缺くべからざる重要條件であります。それには私どもも、決して異存はない。のみならず、常に奬勵してゐるのであります。さりとて今のやうな狀態て婦人が常に不用意て、不謹愼て、外出するが如きはまた極力反對するところてあります。

不謹愼なる外出は、婦人の惰落の動機なる事が甚だ多いのであります。たとへ幸田えん子の如く、男子の辱めを受けないにせよ、慘殺せられないにせよ、一旦惰落せる婦人は却つて、より以上の醜事と申さねばなりません。外出をして見聞を廣くする、交際をして智識を深うするの趣旨は誰しも異存はないのでありますが、外出をし、交際をする事には、常に謹愼なる態度を持つて、須臾も女德の美を失はぬやうする事は勿論でありませう。

たとへ有益なる外出にしても、實に已むを得ない場合の外は、婦人は家にありて、忙しき役目が山程あるはづであります。たゞ一つ臺所の事てさへも、女中まかせにしておくべき事てなく、押入の整理ても、うつかりすれば半日をつぶさねばならぬやうな事あり、殊に三四の子供ある母親に至りては、其忙しさの程は、とても一年三百六十五日、戶外一歩も外出さるべきものてはありません。それを今日は、何に會、明日は何會とて、外出に忙しき婦人が、其婦人たるの任務を全うしてゐない事は、ガラス障子越に見るより尙ほ明了なる事てありませう。私はたとへ其貞操においてたしかなりとも、其任務を全うせざるものをもつて、一種の罪惡と云ふのであります。しかも常に外出してゐる人が、恐しき誘惑にあはない事は眞にまれてあります。

幸田えん子は貞淑にして、純潔なる婦人てありました。而かも偶然此大害に遭ふ、たゞ一時の不用意不謹愼が其災を招きしものと云ふべきてあります。世の女子たるもの、家庭の主宰者たるものは、よろしく此事件をもつて、自らの教訓とし、用意周到にして、つねに萬事に注意するを怠らないやうにしていたゞきたいものであります。たゞに夜間外出に伴をつるるばかりてはありません。日夕夢寐の間にも此教訓を忘れないやうに切望するのてあります。

話の種

（六） 來年の事迄知つて居る

母さん、今年は明治四十一年てすね、と五郎さんはきまり切つた事を聽く。

さうてすよ。來年は四十二年て、五郎さんは六つになるじやありませんか。

と母樣が附け加へる。五郎さんは眼をまんまるにして、

母樣は偉いな、來年の事まて知つてるのね！

（七） 父樣を叔父樣といふよう！

琴ちやんと道ちやんとは從姉妹て、道ちやんの父樣は琴ちやんの叔父さんに當る。かるが故に兩者は寵を爭ひて喜劇を演ずる事も度々ある。其の度毎に兩者は叱度聲をあげて喚きたてるのてある。

道ちやんは琴ちやんの叔父さんを父樣なんて言ふよう――。

琴ちやんこそあたちの父樣を叔父さんなんていふよう――。

母樣はいつも此の爭ひて辟易させられるのてある。

粧へば

楚艶の姿 月も羞らふべく

艶麗の顔 花も及はぬべく

美白の膚 雪をも欺くべし

是れ 乳白化粧水レートが

美人を作る特色として世に好評を博し醫學社會に認定られ化粧界に實驗せられ洋行歸りの紳士淑女に愛用せらるゝ第一の原因なり効用此の如き外

芳香は

バラ、スミレの愛すべき佳香は皮膚に浸潤し衣袂に薫りて發散するより獨り花顔玉膚を作るのみならず兼ねて佳香を添へ月雲花に生命を與へて併せ得たらん如き美人となるには別に苦心を費す迄もなく天下一品世界無比の

乳白化粧水レートを

常に用ひて其効用を完ふすれば足れり「レート」は皮膚を外部より美しく粧ふ料にあらて内部より美しくする料なれば皮膚の色素層を美白にする特効ありて單に一時を美しくなし置くものにあらず而して更に佳香の愛すべきものあれば眞に解語花として美しく香ある美人となるには此の外に求むる必要なし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紀行

舊都の印象

森 志つか

名を懐しみつゝ、曾て足を其地に踏み入ることあらざりし西の京に、甫守甫は四月十七日の夕、東の京から京を巡禮の幾多老若男女と共に着いたのであつた一人だに知人なければ、唯我獨尊の氣樂さと自由とはあれど「お上りさん」の孤獨の感想は數屋町通の旅舍にして、自ら靴の紐を解ける時

京都の御所

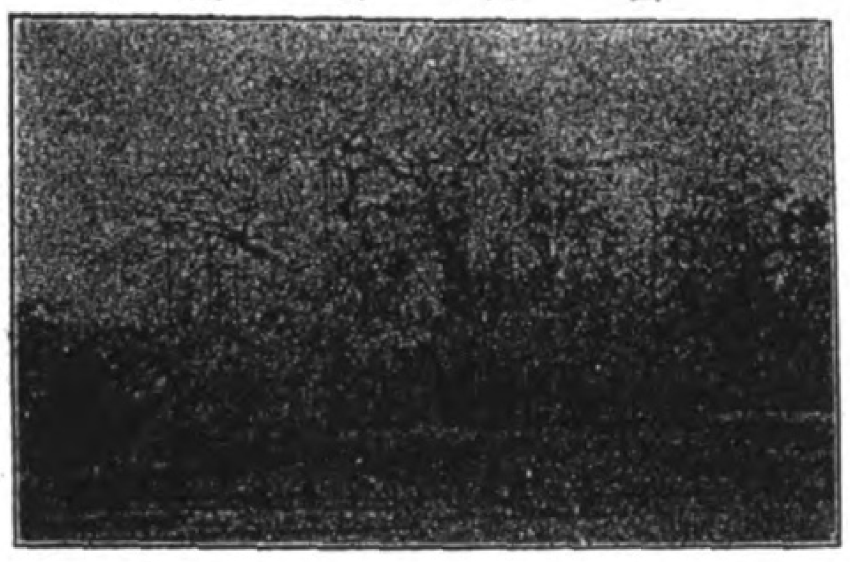
『好う御光來やす』の異樣の詞を、白色の、肌理細かなる、溫和やかの、衣服の好み上品なる女中から聞いたとき、甫の胸裡に『理想の鄕』『舊都』等の感想と共に、渦卷きの如く起り來たり、抑へんとにも、更に其の方法を見出し得ぬのであつた。

蛋白の食味、薄醬油、上品にして可ならざるにはあらざれども、京の人士の自慢するなるひがひのそれよりも、脂肪分豐かなる肉食に、常住過勞勝ちなる腦の營養を充分ならしむることを急とせる甫は酒に親しまぬ代りには、帝都の菓子とはや、趣きを異にせる京風の干菓子と、玉露の甘きに、せめてもの憂さ慰めつゝ、日に制限ある短き滯在に、明日よりは如何にして、如何なる順路を取りて、己が記憶に長き印象を止むべきやう、京の觀察を爲すべきかと、右つ左つ、思案を廻らしつゝ八疊の間の電燈明きが下に横臥せる間、今朝よりの旅疲れ、何時しか熟睡みしよと思へば、十八日の曉は招かざるに來りて、硝子戶の彼方漸く白げ初めけるに、卒とばかり、嗽ひする間をさへ惜みつゝ、餘りの早さに下女の夢驚かして食前の散步――志す方は京の東南部――に出るのであつた。

帝都には見慣れぬ塗家建てさへ初上り(?)の甫の眼には怪しく映りつゝ、四條の橋渡るほどに、音にも高き四條磧(鴨河原)左右に開け、微凉面に快きも、三島の清き水に親しみ深りし彼は、加茂の流をさしも淸冽とも思はず、唯だ比叡の峯を、前方朝霞の裡に望みつゝ、先斗町を右に見て、何時しか祇園の巷に入るのであつた。由良之助の名と共に元錄時代を想起さしむる一力の名を懷しみつゝ、夜の賑ひは卒知らず、春は曙、何處とはなしに寂しみのうちにも賑ひの景色せる祇園の巷を何時しか背後に見捨てたる彼は、眼覺ましきほど櫻咲き誇れる圓山公園に着いたのであつた。

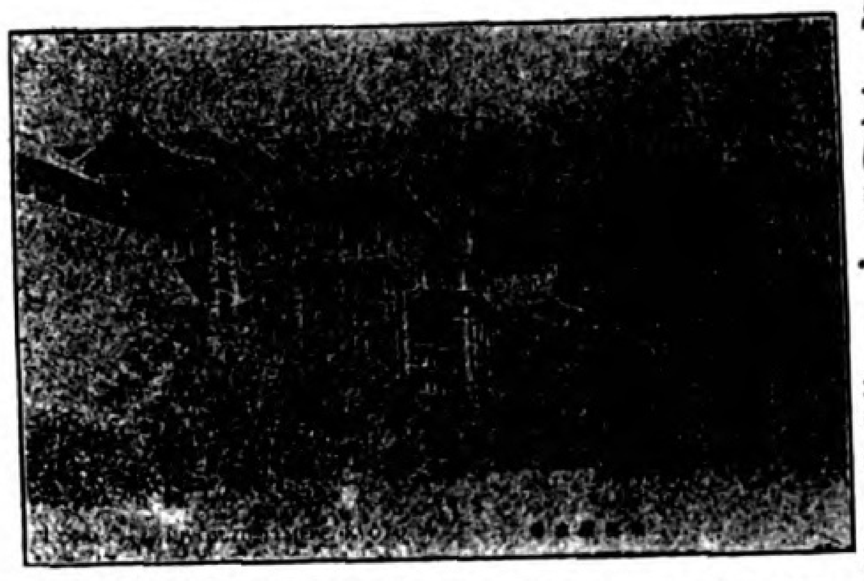
流石は京、流石は春である。未だ朝の六時には間あるべき此の朝朗に、若葉の彼方櫻の木の下何處も近鄕から巡禮の者らしき人人の多數と京を七分、帝都を三分の洒落たる意義なる夫れ者らしき女性の少數とが、早やくも三々伍々を爲して居る。公園の廣場にはビール店あり、ミルク店あり、櫻の木の下に珈琲店に今朝の新聞を繙讀しつゝ珈琲の暖かきを啜る紳士らしきも

圓山公園



居る。流石は京、京は春よと、驚異の想に胸を打たれた甫守甫は、知恩院の階段近くて、二人連れの女性に遭つた。二人ながら淡きと濃きと幾分の差こそあれ、同じお納戸縮緬の羽織の着こなし、確かに普通の女性ならず、祇園のそれなるべしと彼は思ふたのである。彼は二人を美しとは思はなかつた。が併し艶かしいとは思ふた。その艶かしさが、帝都のかゝる社會の女性とは全く趣を異にせるに深き印象を止め、險ある眼の女性、帝都のかゝる社會に多きに、此の二人には險なる個處とて更に無く、艶と優、この二個の形容詞にのみ當てはまるべき女性と思ふた。險ある眼の東京の女性にして、その面貌宜しからずば、恐しき女性に見ゆるが如く京の女性にして容貌美しからずば、唯だ意氣地なき女性とのみ見へんと。

清水寺



彼が京美人に對する觀察は斯の如くてあつた。しかして、彼は今日に至るまでも其の觀察の誤らざるを誇つて居る。

それは兎に角、彼は知恩院の閑雅を嬉しみつゝ、更に步みを淸水寺に運んだのである。幼き頃、母よりの寢物語に屢々聞きつる淸水舞臺のさして高からず、神神しからぬに失望せる彼は、舞臺の上より遙かに前面の眺望に耽りし時、云ひ知れぬ歡嬉を禁じ得なんだ。

先づ左の方は木々の木の葉の靑疊、つづいて櫻の花の木の種々の帝都の如く塵立たざれば、木の葉の綠色彌深く、空の色鮮かなる裡にも、和暢に霞罩めたる彼方には京の町々、遙かに織模樣と、浮み出てたるかの如くなる――その風情、曰く云ふべからず、筆にし難しと、彼は思ふた。

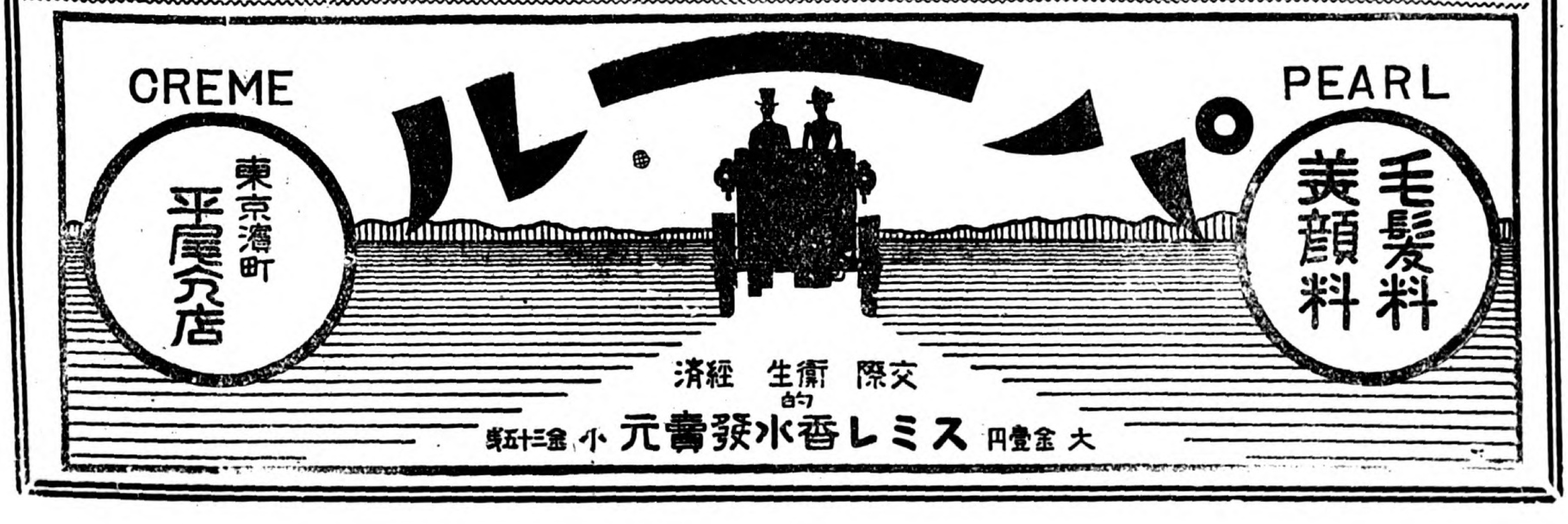
時は既に午前の八時。頗る空腹を感じ初めた甫は、俥を傭ふて急ぎ旅宿へと立歸つたのである。

朝餐後、憩ふこと幾許もなく、彼は更に俥を賃し、久戀の加茂神社を訪ひ、更に俥を、京の西北部に駛せて金閣寺を訪れたのである。落花紛々として古松老杉の新綠と相合する加茂神社境内の春、いかに彼は嬉しく思ふたことであらう。あはれ、加茂の水上水淸し! 加茂神社の神池より湧き出づる水の色をも、さして美しと思ふたので無かつたが、甫の心には頗る周圍の光景が嬉しく映つたのである。途にして唯或る丘陵にして、比叡、鞍馬、愛宕の三山、峯々相並べるを、咲きつゞく菜の花畑趣しに打ち眺めた時、更に彼は『理想の鄕』たる感を深からしめたのであつた。

足利時代の歷史を回想せしむる金閣寺さては、閣內の庭園の趣、彼に取りて嬉しからぬにはあらざれども、集ひに集ひ來る俗惡の人群は、彼をして尠からず失望せしめた。失望した彼は更に懷しの嵯峨、御室を經、尙ほも進んで嵐山の春をも訪れた。彼が嵐山に對する感想――そは、靑丹よし奈良の古都瞥見記と共に稿を新たにして傳ふべし。

金閣寺

――四月二十日奈良菊水樓にて――



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

―季季雜詠―

大口鯛二大人選評

○○一等　東京　飯塚きよ子
高とののをすまくそてにほひけり花の香ふかきゆふ月のかけ

、、○二等　大阪　佐野眞子
大雪のつもる都はいかならん花眞さかりのはるのなかはに

、、○同上　岩代　長谷川吉野子
むらさきの菫の床をなつかしみ今日も暮しつ春の野にして

、○三等　大阪　十合喜美子
夕まくれ人はかへりし花かけをひとりしめてもたゝすむや誰

、○同上　山口　末田貞節子
得もいはぬ色に匂へり春雨のつゆをふくめる山吹のはな

、○同上　三重　諸戸つね子
うつろひし梅の木かけにゆかしくも一花にほふつほ菫哉

○四等

きゝすなく片山かけに日は落ちて夕月あはくさくら花ちる　越後　阿部ひて子

たま川の清きなかれにかけうけて一重山ふきいま盛りなり　大阪　佐野眞子

花うりのこゑもきこえてしめやかに春さめそゝく京師の巷　東京　飯塚きよ子

さく花にうきたつ人のこゝろをも一日しつめて春雨のふる　上野　木暮千代子

物といふ物見ることにうるはしきこゝちこそすれ春雨の跡　下野　黒須輝子

さひしさに花のころともおもほえす小雨そほふる春の夕暮　岡山　西村眞子

藤くこくさける岩根の岩つゝしなる人なしにもゆる色かな　三重　荘司種子

我庭に若木のさくらうゑしよりあめかせおほき心地社すれ　三河　石川ろゐ子

わたつみの沙の入電路をゆくふねの影もほろなり春の夜の月　東京　林きく子

こゆるきの磯菜つむ子のあしらとをさゝ波洗ふ春の海かな　函館　安藤きく子

はゝきとる男のかたに木蓮のはなちりかゝる山てらの庭　岡山　横川明子

、、五等

はなさそふ嵐をきゝつゝあかつきのうまいのゆめを驚の呼ふ　東京　四川雛子

散りそめしさくらのかけにたゝすみておもはすも見る朧月哉　廣島　金原なを子

春かすみぬひつゝいそくをとめ子の桃割髮にもゝの花散る　仝上　仝

花に暮れはなに明けゆく我さとはこゝろのちりもとまらさりけり　仝上　仝

うちかすむ梅の木の間の朧月くまなきよりもおもしろきかな　三重　西山ひさゑ

さなきたにちるをいそける櫻花など春さめの降り添くらん　岡山　山崎薫子

七色の衣かされたる佳人の黒髮はゆるはるのともし火　京都　湯淺ふみ子

これのみは都の人にほこらましのきはに來啼くうくひすのこゑ　岡山　入木清子

見渡せは畑また畑に菜のはなのかをりしたひて蝶の舞ひつゝ　兵庫　古舘ひさ

鬢の子に都をとめも立ちましり貝拾ふ見ゆかすむ濱邊に　廣島　藤野鋭子

つれはうきわか庭なれとさくら花さかりのころはははえそありける　横濱　鈴木松子

いつこよりたむけにけらしあかの水にちりてうかへる花のひとひら　三重　中島千萬子

家路さへうち忘られてうるはしき花の水かけはあく時そなき　京都　渡邊豊子

山吹の影みみたして小女子かさとの小川に貝あさるなり　山形　阿部さゐ子

なつかしき都の友に送らはや雲雀なく野に摘みしすみれを　青森　大槻八佐子

舞ふてふを追ひてわかれて草にふすなとめか袖に櫻散るなり　東京　清岡忍子

、六等

衣洗ふ水にも花のかけ見えてちる一ひらは袖に留れる　愛知　湯淺と代子

まきあけし小簾の緋房の色もえて春日かゝやく高殿のまと　三重　中橋多磨子

摘草につかれ芝生にやすらへは小蝶とひかふ袖のあたりを　東京　清水いま子

谷川にくちうちすゝきしつかにもひとり花みる春のあけほの　和泉　金田つる子

九重の雲井にたかく咲く花を身は下なから見るよしもかな　大分　桂木文子

つれ〳〵と降る春雨に閉ちたれて花の盛りも問はて過こせり　大分　清閑女

雨はれて長閑にかすむ明石かた松をよるへとうくひすのなく　京都　中川たか子

春をしむ人やたもとをしほるらんあめにすきゆく花の盛を　東京　清水まつ子

花の上に月も歩みをとゝむらんはるの一夜はおほろなりけり　青森　留目文子

美しき水とすなとの七まかりまかれる中に杜若さく　讃岐　淵高やす子

たらちねもかへりきまさす更けし夜のとさゝぬ窓に春の雨ふる　福岡　松野操子

うら〳〵と霞も春の野べに出てわれらに來よと誘ふやうなり　青森　竹林秋子

いへのわさいそしみつゝも春の日は花に心をよするたのしさ　遠江　平松いと子

行く春を引とゝむへきうたもかな水田の蛙花の鶯　三河　市川はな子

ちる花も風を勿來の關ならはくれ行く春をとゝめてしかな　三河　岡人

青柳のいとものとけき川なみにたれてうつす春のいろかな　和泉　金田久子

教へ子と袖ふりはへてすみれさき雲雀な野にけふもくらしつ　青森　大槻かれ子

久方の空に雲雀のこゑすなり野邊こそ春の光なるらめ　青森　三上秋子

大方の人の心をそらにしてくしきは花の盛なりけり　伊勢　小島駒子

さきにほふさくらのかけにものゝふのちりしむかしをしのふころかな　山口　末田竹子

玉川の清き流れにちる花のゆくへも見ゆるおほろ夜の月　下野　那須の花

世のうきもわすれはてけり今日ひとひ若菜つみつゝ歌かたりして　美作　清水操子

ほそくふる春雨のまとたれこめて文よむ今日は問ふ友もなき　靜岡　安永みち子

●現代歌壇の代表的歌集●

歌集 玉琴

佐々木信綱氏選

現今の歌壇に清新の歌風を唱導し夙に其嗣を爲せる竹柏會の俊秀が傑作を佐々木氏が精選せられしもの絶好なる參考書也

●定價五十五錢郵稅六錢●

東京春陽堂發行

大英國帝室の御用品たる
スミス洗粉は
三十年間
畏多くもビクトリヤ女皇陛下の
御愛用を忝うせし物なり

スミス
洗粉の
特色

品質の精良香氣の優越最も經濟
使用の便利男子も必用

定價
瓶入大金卅錢　小十八錢
袋　十二錢

製造元
英國倫敦
スミス化粧品會社

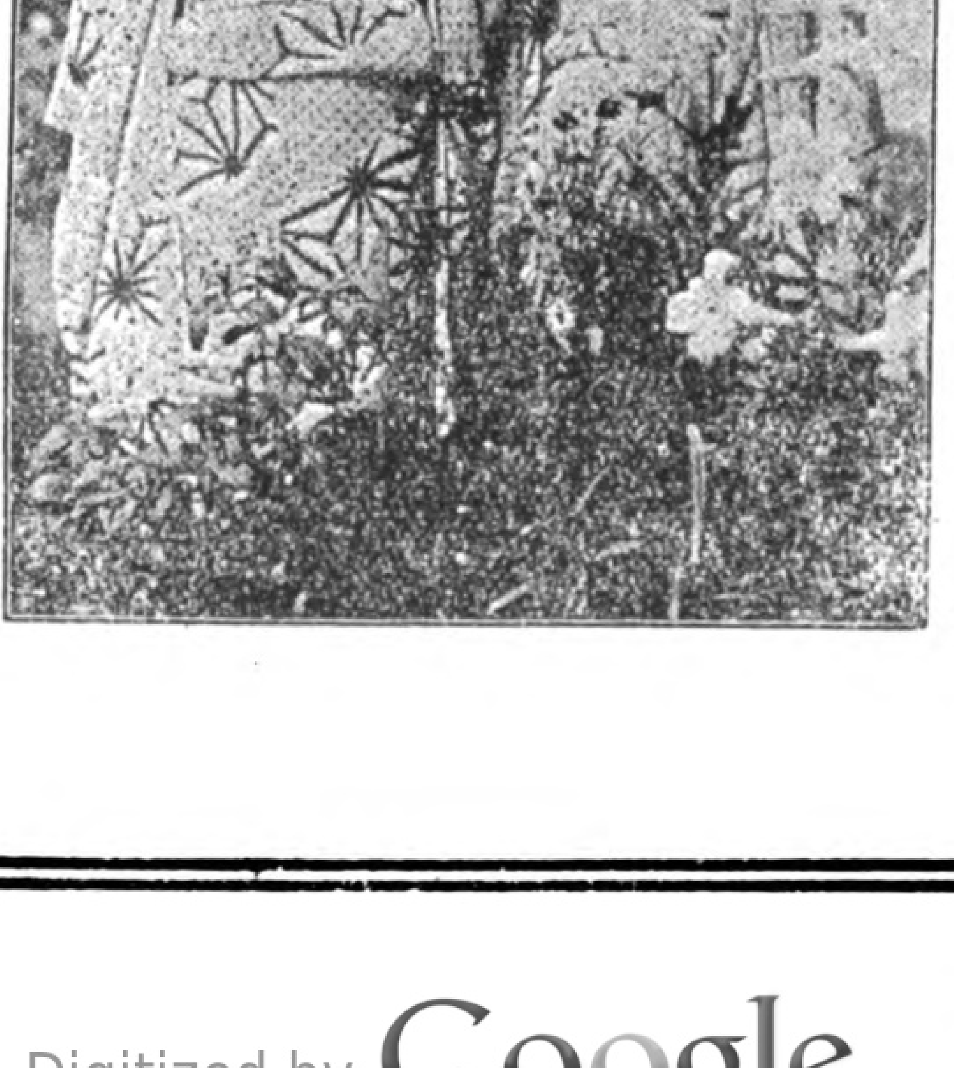
發賣元
東京銀座
佐々木商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美人中最も高尚なる素顔の美を貴ばるゝ御婦人は益々クラブ洗粉を愛用せられつゝあり

若し君に斯く問はゞ

令孃時代より常にクラブ洗粉を愛用せられし妻君の總てが素顔の美しきは何故かと問ふ人ありとせば其は舶來石鹼に優る有名なるクラブ洗粉を美身料として使用せらるるが爲めなりと確かに其良人たる君は之に答へん



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新体詩

編輯局同人選評

三等

影　函館　前田武子

柴負ひて野良より歸る色白き
少女のひとりうなだれて春ゆく小野に
黄昏る丶淡き日影を眺めては
歩み佇みはらはらと涙頬つたふ
遅れがち又急ぎ足——葉櫻の
窓によりつゝ母刀自の待ちておはさん

評。筆調は整ひたれど、猶内容の貧弱を免れざるは口惜し。

佳作

うつり香　岩代　長谷川吉野子

日のゆふぐれの花影に
見しを遠世の夢なりと
包むとすれど移り香の
御袖を洩れて匂ふかな

評。艶麗。又日。艶想、先輩の詩集に多きを如何せん。

少女　静岡　安永みち子

夕日影まともにうけて
歸りゆく里の少女子。
馬の脊に苅りし薪に
折りそへし櫻ひと枝
待つ人を胸にゑがきて。

評。平常の作に比すれば、殆んど別人の手になりしかと思ふばかり拙なし。簡勁一番次號には復活を期せらる丶やう切望に堪へず。

夕暮　東京　佐野くに子

いかなる君の言葉か
飄へゆかしきせゝらぎの
春ながれゆく川沿に
柳すがたもらうたけて
濃青の髪の匂ふかな。

評。未だ餘り御山御作りにならないらしい歌ひ振りですが、それにしては大層よくできました。今後の御上達を祈ります。

野遊び　岡山　清水うめ子

つくしたんぽゝ花すみれ
今をさかりと匂ふなり
蝶は花より花にとび
雲雀は空にうたふなり
来ませ我友野にいでゝ
座してひさごの酒くまん。

評。筆調流麗。

野遊び　下野　那須の花

花ちらちらと開く窓かの
水もぬるみて暖かく
みどり萌え出る野に續く
瀰生花見の樂しさの
日和に笑ふ山々や
囀りさへも八重霞
東風やそよそよ暮遅く
いや増す春の野遊びよ。

評。新しき方面を御歌ひなさい。

花蔭　岐阜　瀬高やす子

絶て久しき俗名を
いぶかし耳に入らむとは
言葉もなくて泣きむせぶ
さびしき笑に見かへりぬ
朧月夜の花蔭に
歩みを止めし若き尼
六十路あまりの老婆なば
靜心なく花の散る

評。不自然ですが、まづ宜しい方です。

落花　横濱　鈴木まつ子

のどけくふけゆく風なれど
さそひしとのつれなさよ
咲のさかりのさくら花
惜しむ心はわれのみか

評。平凡

田舎　大分　桂木文子

わらび土筆のもえ出る
畫たんぽゝ蓮花草
流れて落つる谷川に
ひなの春こそのどかなれ。
野山ながめてゆく道は
名もしらぬ花もゝちぐさ
優しき少女せり摘ふ

評。簡潔に歌ふやう御心掛なさい。

世　岡山　入木清子

あはれはかなき運命に
櫻の下に身をよせて
花や昔の花にして
さだめはかなき世なるかな。
此世の望み絶え果てぬ
苦しさ忘る今宵しも
月や昔の月ならぬ

評。もつと短かく詠ふやうになさい。

應募者へ注意

一、應募諸子の奮勵と勉勵とによりて、新體詩壇創設日尚は淺きにも係らず。頗る盛況を見るに至れるは選者の最も欣ぶ所なり。
一、本壇の盛況を呈すると共に、應募者の數も益々増加し、毎號新らしき作家を出し、應募投稿も夫に從ひて増加しつゝある今日なれば、
一、今後選者は一層本壇の發展を計らん爲、從來よりも撰評を嚴にし拙劣なるものは遺憾ながら沒書にすることゝせり。
一、これ甚だ酷なるが如きも、本壇の進歩を計らんとせらるゝ方は必ず首肯せらるべし。
一、されど諸子が苦心の作をみだりに沒書するは心苦しき事なれば、なるべく應募者は二篇以上づゝ投稿せられたし。二篇以上掲載にても多きは差支なし。

以上一言す(選者識)

流行新柄御半衿り各種
ゑり善
東京日本橋區堺町通ふきや町
電話浪花千百七十七番

商品案内表無代送呈
金銀時計類及附屬品・喫煙具・寶石入指環・金銀盃・茶器類・洋食器・七寶花瓶・其他美術品各種
大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士令夫人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の體狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

Always get the Emulsion with this mark—the Fishman—the mark of the "Scott" process!

肺炎に罹りたる後スコツト乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り満三ヶ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコツト乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコツト乳菓を嗜好致候拙者共はスコツト乳菓が愚息に與へたる好果を觀て右愚息の平癒を以て全くスコツト乳菓の効驗の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフヰルド、ドールセツト街六拾三番地
ジヨン、イー、ブレーキー

右快復の理由

右ジヤツキー、ブレーキーが肺結核とならずして快復したるは全くスコツト乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油(最上等にして最高價なる肝油)が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靱なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコツト獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

專賣特許
一名(テンピ)名和式蒸燒器

▲定價(大)金貳圓七十錢(中)金貳圓二十錢(小)金壹圓七拾錢●販賣御望の方は御相談に應ず

製造發賣元　東京市日本橋區蠣殼町二ノ一五　電話浪花千二百七十番　名和商店

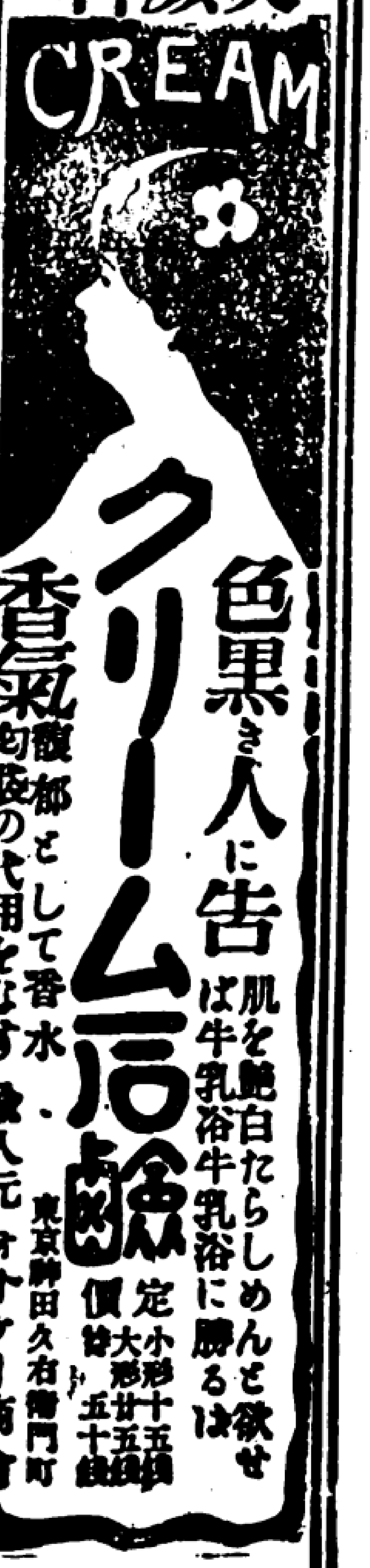
●本器は圖の如く在來の(テンピ)と異り頂上に火を要せず火地輪に掛るれば火力は下部中央の穴より入り室の上部中央の穴より平均に火熱を周圍に普及し迅速に魚鳥獸肉類或は(パン)玉子等を加減よく蒸燒き得る輕便經濟なる嶄新の器具なり手數と時間と燃料を節減し運搬輕便和洋割烹一切を迅速完全にする家庭臺所に必要の良器なり

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂
電話下谷(特九六五番 一二四四番)

美顔料
CREAM



色黒き人に告ぐ
肌を艶白たらしめんと欲せば牛乳浴牛乳浴に勝るは
クリーム石鹸
香氣馥郁として香水、匂袋の代用をなす
定價　小形十五錢　大形廿五錢　五十錢
輸入元　東京神田久右衛門町　オトケー商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞圖案

我が發行所の募集せる『愛國婦人』第一篇『女徳論叢』表紙圖案に對し應募せられた方々は合計六十名御座いました。その中、苦心の作とも見られ選者の眼を惹いた圖案は、

東京本郷六丁目十一番地　小高時子
京都市西洞院二條北に入　加藤雪洲
東京市下谷區下根岸五八　上野喜代
同府下大久保百人町一八　松室健男

以上四氏ので御座いました、その外に

阿部秀子　西山ひさゑ子　古館ひさ子

諸氏のも仲々に捨てがたい趣が御座いましたし。その他、凝りに凝つて法隆寺什物を圖按されたのも御座いました。

諸嬢子が斯くも我が發行所の爲めに奮發應募されたのは同人を初め選者の深く感謝に堪えぬ處で御座いまする。が、一方から申すと、斯くも多數に集つた圖案のうち、これはとばかり、一頭地を拔いた圖案の無いのは、聊か心外に存じましたし、また等級を付ける上にも仲々に困難に存じました。

併し選をすべきものを、その儘に致して置く譯には參りません、依つて種々の點から精々選評の結果殘念ながら、一等に當選する分は無いことになりました、そこで第二等――。

第二等は遂に小高時子氏のものとなりました。實は一時は松室健男氏のをと、云ふ論も切りに出ましたなれど愛國婦人社では困ると云ふ説も多數に出て即ち松室氏のは、殘念ながら第三等に落つることになりました。選者も深くお氣の毒に思ふて居ります。

又た上野喜代子氏、加藤雪洲氏のも仲々に結構には思はれましたが、種々の點から異論が百出致しまして、遂に入選致しませんのは殘念で御座います。依つて失禮かは存じませんが、上野、加藤兩氏の分は選外と致して薄謝を呈すること、致しました。

即ち、今回の結果を發表すれば左の通りで御座います。

第二等（賞金拾圓）小高時子氏
第三等（同五圓）松室健男氏
選外（同壹圓）上野喜代氏
同上（同上）加藤雪洲氏

尚ほ應募圖按の一二は次號の誌上に寫眞版にして掲げまする。

尚ほまた、賞金は近く御届け致しますから、左樣御承知置きを願ひます。尚ほ附けて應募者の方々に申し上げますが、御承知の通り本誌には毎號『百需選』が載せてあります。若し諸子にして、御奮發御投稿あらば、掲載の分に對しては薄謝を差し上げます。

短文

編輯局同人選評

一等

文ちやん　讃岐　瀨高やす子

昨日より伯母さんになつたのでめつきりおとなしくなつた文ちやんは、今日も廊下の柱にもたれて、おぼつかない手つきで編針をうごかしてる。ころ〳〵と動く毛糸の玉を、何處からねらつてたのか、鈴の音も輕く飛びつく小猫、「あら三毛や」かわゆい足とりて廊下をトンて飛石の上まで逃げた。三毛の丸い目は又も玉をば見まもつた。

評。想は舊けれど、筆致輕妙なり

二等

おもふまゝ　下野　黒須輝子

チリチリーン！、女中が敷居の處にかしこまつて靜に唐紙をあけて兩手をつく。紅葉館へ電話‥‥明日のお花見のお料理を命令けるんだからね。こんな樣に暮して見たい。

●評。貴女の理想は禪學などを振りまはす人よりも、女らしくて結構です。

三等

夕暮　佐賀　小林龜子

炭坑の汽笛は午後五時を告げぬ。まもなく選炭場を出て來る男女數十百人、顏は炭の粉のために、あやしきまでに黒きが一日のつとめ終りしが、うれしくてかあるは高き聲にて語りあひつゝ、あるは濁みたる聲に、みだらなる歌うたひつゝ歸りゆくなり。

評。飾らずに書いたので、文が活きて居る。

秀逸

一日の樂しみ　靜岡　安永みち子

一日の課業を事なくすまして、あの春の日脚の長く引いた頃、ラケツトを手にして、塵一つ止めぬコートの一隅に立つ時よ。向ふにはお馴染のお轉婆同士が二人、み空の星が下界に落ちたらばと思はれる熱球、姿勢もくづれて汗掘る時、爲朝が左手ほしや、右の方のみ延びたりと冷評す友もあれば。

評。手の長いのは餘り感服しません。選者も若かつた時は平家蟹の足の樣な手がほしいと思つてました。

摘　山形　阿部さゐ子

彦ちやんが山に行かうとせがむので、おぶつて築山に上ると谷あひの所にさいて居た櫻を見て「あれはなに」「櫻といふ花ですよ」と敎へてやる。「あの花はたれかつけたの」「あれはれ神さまが咲せて下すつたのよ」「おばちやん神樣はどこに居るの」。

評。小兒が無心で云ふ言葉には、時々深い意味の籠つて居るものです。

まゝごと　山形　三浦芳野

ちよちやんと彦ちやんとは、大の仲よしで今日も梅の木の下でまゝごとをやつて居る。花の散り敷く其上に坐して、すみれ、たんぽゝ、つくしなどを、しきりに集めて漸う馳走が出來た。其傍に大きなぽちがねむつてる。日は暖かく二人の背を照して居る。

評。達筆といふべし。

思ひ出　鹿兒島　藤野淀子

春雨の徒然なるまゝに、手文庫を整理してると、一封の手紙が出た。見れば懷しや〳〵千代子の君のみ筆である。共に學びの庭にいそしみしつゝ、行末のこと等何くれと語りたることども、思ひ出よとか色香床しき菫の花が挾まつて居る。君はあらず。此文此花われは口にあてつゝ泣き伏した。雨の音は庇に。

評。思ひ出る悲しみの中には、又いひ知れぬ嬉しさなつかしさもおはすべし。さな歎き給ひそ。

小兒　大分　桂木清閑女

當年三歳の幼弟、指でついたやうな笑くぼ、林檎のやうな頬の色。顏にあふるゝ許りの笑をみせて、かたことまじりに、わたらお父樣のやうにおもか（大人）になつて、そしてお髭を立て、と鼻の下を撫て、こんどは兩手で眼の邊を一寸押へて、金ぶちの眼鏡をかけて、こやつてあるくのでちゆう。と小さき兩肩いからして、室内を活歩する樣の、おかしさ、かわゆさ、わが家庭の春は常にこの兒の一擧一動にかゝつて居る。

評。もつと簡潔に書くやうにしたら、いゝ文が出來るでせう。又日。その兒の日記が見たいものです。

野あそび　京都　茨城まち子

オナ君子さん、御覽なさい。伯母さんはもうあんな高いとこへ行つてゝよ。早く行きましよ、さアあそこまで駈けつこしましよ。サ一二三。

評。言葉で現はすのは仲々六ケしいものです。

長閑　岩代　長谷川、吉野子

今をさかりと咲揃ふた垣根の桃には紅い、産衣が干してある。と何かさゝやきやらいさゝ川が其下を流れて行く。雛をつれた鷄がコツ〳〵と啼きやら餌をあさるのか狹い庭を矢鱈に蹴ちらかす。てら〳〵と日のさしこむ椽側には猫が腹かへりを打て、眼鏡の媼さんが餘念もなく糸を繰つて居る。

評。長閑なる田舍の光景、寫し得て眞にせまれり。

選外佳作

△雜魚釣り。竹林秋子△春の日。阿部秀子△夕。中川たか子△お花見。中山由子△あはれ櫻。清岡忍子△樂しき夕。横川明子△山里。西村長子△消息。山崎露子△行く春。鈴木榮子△小猫。高橋彌子△雛。春子△

以上の十一品は、それ〳〵に棄てられぬ趣きあれど誌面の都合にて、掲載するを得ざりき。これに力落さで次號にはこれにもまさる佳作をものし給ひてよ。

第八十二回 文苑募集

和歌　春季雜題　佐々木信綱大人選評
俳句　春季雜題　内藤鳴雪大人選評
新體詩　題隨意　編輯局同人選評
短文　題隨意　編輯局同人選評

△地方的料理法△一口々．讀者欄等投書を歡迎す。
△注意　應募原稿には、見やすき處に、和歌とか俳句とか、其種類を明記せれたし。
△短文は其名の如く、なるべく短くて面白きやうに書かれたし。長きも十行以上に渉るべからず、短きは十字二十字にてもよろし。
△記事の都合にて、文苑募集の廣告を掲載せざる事あるべきも、配慮に及ばず寄稿せらるべし。
△次號への投稿は廿日に締切り六月五日の誌上にて發表、賞品は十日以内に送付す。以上

●美形隆鼻術

本術は余が始めて廣告せし處にして唯一回の無痛注射に依り即時に低き鼻を隆くし終身凹むことなく身體に害なき安全確實の醫術なることを保證す

神田今川小路二ノ十一（御嶽敎會裏通）
施術午後三時より九時　和田耳鼻咽喉醫院
大學醫院辭職開業　和田昌訓

◉色を白くし にきびしらず

獨逸國ドレスデン市 ロールメヂシンス會社製品
皮膚特効美白新劑
チプリ化粧水

縮圖

○本品は西曆千九百六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艷麗の美顏たらしむる事は第一の特色なり
○本品は皮膚に特効ある藥品を配劑しあるに依り「ニキビ」「ソバカス」「ハタケ」其他顏のアレ等に最も奇効あり
○本品の効能顯著なる事は試驗成績の結果に於て之を確むるを得遂に政府印紙を貼用するに至れり本邦に於て化粧水に印紙を貼用するは本品を以て嚆矢とす
○東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（六瓩迄）相添へ本舗へ御注文あれば直送す

正價小瓶三十グラム入 金二十五錢

● 東京日本橋區本石町
日本一手販賣　松澤常吉

俳句

——春季雜題——

内藤鳴雪翁選

天　福井　野田鶴子
欄干に舞衣かけぬ春の宵

地　東京　中山由子
旅笠や故鄕の道の暖かき

人　福井　小磯靜枝
豚の子の年々殖えて桃の宿

秀逸

菜の花や夕日眩ゆき日から傘　京都　支葉ふき子
世の春をこゝぞと櫻咲きに鳧　下野　黒須輝子
鶯に梅なき庭ぞすさまじき　福井　見谷蔦子
君か代は靜かに明けて梅のはな　下野　黒須輝子
咲く花も散る花もあり春のあめ　仝　仝　上
紅梅の露に臙脂とくをんなかな　東京　西川縫子
日永さや膝に寢る子の高いびき　下野　黒須輝子
うぐひすの聲ばかりなり藪の中　仝　仝　上
はらはらと櫻散りしく薄月夜　廣島　金原直子
里に居て京のはなしや春の宵　東京　栗山てい子
母の手をとりて嬉しき花見かな　仝　伊矢野孝子
寂として藤のはな散る神の池　岩代　長谷川吉野子
啼く蛙京にも田舍ありにけり　福井　小磯靜枝
松くろく浪しろく月おぼろなり　越前　三谷さた子
春雨やをかしく響く駄馬の鈴　岡　かつ子
花の香やたふとき寺の門よりぞ　紀伊　北川圭三
鶯の鳴く村にかへりし兵士かな　三重　西山ひさゑ
山越せば吾か家間近し桃の花　下野　黒須輝子
黄昏れて一と明りするさくら哉　三重　鈴木春子
春の露散るや女中の綿ぼうし　東京　鈴木榮子
連翹のあはしき影や五日月　京都　安井千勢子
高殿のともし火淡し春のあめ　越後　阿部ひで子
野遊や城下の衆の絹パッチ　東京　赤澤英子
生垣のうちも覗くや桃のはな　下野　黒須輝子
春雨に朝ねすごすをんな哉　仝　仝　上
橘の老の寐ざめや春の月　仝　仝　上
桃咲て日當りの好き伏屋かな　三重　中橋多麻子
花にあけて柳にくるゝ庭かな　岡山　西村長子
春風に柳のすれる小窓かな　京都　茨城茂子
永き日や雀と鶏の喧嘩かな　東京　加藤ふみ子
帶とけば花の一とひらこぼれ鳧　山口　末田端子
緋毛せん敷くや少女の花の宴　大阪　佐野眞子
朽ち殘る丸木の橋や藤の花　山形　阿部さゐ子
蝶逐ふてはしる少女のりボン哉　京都　渡邊豐子
菜の花に明るき雨や雁かへる　仝　湯淺ふみ子
下駄ぬいて草履はきけり花の山　仝　仝　上
湧く潮に汐干の足を洗ひけり　三河　市川花子
物陰の小語は誰れおぼろ月　東京　齋藤さた子
春雨や初瀨詣での駕籠二挺　伯耆　佐伯くに子
靜かにも落る椿や春の雨　廣島　藤野鈴子
すみれ摘みて置忘れたる土橋哉　福島　森田よしの
山青く水しろき夜や月おぼろ　石川　大坪外與子
海棠のしつく受けたる硯かな　東京　彦坂たき子
紅ゐの手襷揃へて茶摘かな　備後　世應龜子

選句の中の鳴雪翁

太郎冠者

みどり色の日射が、若葉を洩れてあるかなきかの光を障子になげて居る。障子一重こちらには、書籍やら手紙やら、原稿やら、雜誌やらが机上に溢れて、八疊の書齋一杯に置き亂された間に、茶菓と火鉢とが苦しさうに頬を出して居る。

鳴雪翁は、その中に座して、切りに愛國婦人の俳句を選んでいらつしやる。太郎冠者は火鉢に噛りついて御前にさぶらふ。

還暦の翁ひをすまされて、尙は矍鑠たる翁は、座をもくづさず、讀んでは直し又誦んでは點を附けられる。

やがて數百千の應募句中から、數十の佳品を選び終ると、あらためて又それを一つ一つ讀みなほして、更にその中から左の六句が選ばれる。

欄干に舞衣かけぬ春の宵　野田鶴子
豚の子の年々殖えて桃の宿　小磯靜枝
菜の花や夕日眩ゆき日から傘　支葉ふき子
旅笠や故鄕の道の暖かき　中山由子
世の春をこゝぞと櫻咲きに鳧　黒須輝子
鶯に梅なき庭ぞすさまじき　見谷蔦子

後進を導くに誠意を以てし、懇切を旨とせらるゝ翁は更にその六句を一一丁寧に膝の上にとつて、比較される。やがて欄干にの句に二重圈點を附けて之を天とせらるゝ。豚の子の去年よりを年々と直して人とせらるゝ、次で菜の花やの句を手に取られたが、なほ慊らぬげに、視線は膝下の旅笠やにそれた。これは原句は春の日やの凡句であつたのを、翁が一寸筆を染められるとかく立派な句となつたのである。

斯くの如くにして、わが愛國婦人第百五十二號に揭げらるべく、懇切なる翁の手に、俳壇は出來上つたのである。それを戴いた太郎冠者は欣々として、お暇をすべつた。（四月廿九日午後二時）

讀者欄

記者より。「懸賞梅か櫻か」は大層讀者諸姉の御氣に入りましたので、旣に壹萬以上の解答者がありました。然し皆樣が餘り六ケ敷御考になつたものか、當つた方は澤山ないやうで御座います。記者は皆樣が凡てお當りになるやうにと、思つて居るのですから、此際御あたりにならないか、御心配される方、又は未だ御解答なさらぬ方は、大急ぎで御送り下さい。發表は來廿日の誌上で致します。△懸賞、女德號の表紙圖案は本誌に發表してあります。大層立派に出來たさうですから本が出來上ると、皆樣の愛讀書が一つ增へるわけですから、樂しんで御待ちなさいませ。△讀者欄ばかりでなく、凡ての應募原稿は、必ず墨か黒インキで書いて下さらぬと、字が消えてよめませんから、自然沒書になります。御注意なさるやう希望いたします。以上

讀者より。△愛國婦人第百九十號新體詩一等に當選の榮を被りし拙作に對し、殿下御染筆一軸及大日本未來の鏡、繪はがき澤山、新體詩稿等過分の賞品御送付被下有難く拜受致し候先は御禮まで草々（前田武子印）△四万うらうらと花咲く都の春と成り申候、編輯の君をはじめ各地讀者の君たちには、いよいようるはしく御暮し遊ばされ珍重の御事と存じ上候私事再び讀者の數に入候へば何れもよろしく御交際の程ねがひ上候（淸水いま子）△拙作新體詩三等に當選仕り候よしにて、美事なる扇子おめぐみ下され正に落手仕候まゝ御安心被下度候去にし八日は時ならぬ吹雪にて都は銀世界と化し候よし別に御障害はこれなく候哉御案じ申候（金原なを子）▲有難うございます。よいあんばいに障害は御座いませんでした。唯電話が切れてしまつたので、困つたゞけです（記者）△思ひがけなくも拙き短文三等にあたり候由にて美しき御扇子頂に美しき姉上かたの御端書御めぐみ下され有難く落手仕り候先は御禮まで申のべ候かしこ（瀨高やす子）△俗事にかまけて、しばらく皆樣と御目にかゝりませんでしたが、結構な御作は始終紙上で拜見して居りました。群馬が振はないのは殘念です。本縣の方々も御投書なさいませんか（木暮千代子）△拜啓貴紙第百九十號短文及和歌入選の由にて有益なる書籍御惠送下され有難く御禮申上候かしこ（長谷川吉野子）△御地は意外の降雪有之候由誠にくく驚き入り候、貴所には別に御變り無之候哉、記者樣方は如何に候哉御案じ申上候、御誌も大に面目を改め種々有益の記事數多これあり山陰の僻地に居住致し居候吾々にとりては。利せるところ實に多大なるものに候、これ偏へに皆樣の御配慮御盡力の賜物に外ならずと、深くく御禮申上候かしこ（重村芳）▲これからも一層御愛讀を願ひます、われわれも及ばずながら本誌をよくしたいと思つて居ります（編輯小僧）△花は盛りにいと長閑なる此の日賞與として主婦の職分一册と美はしき繪端書數種いたゞき實に記者先生の御懇切なる御教示の然らしむる處と深く感謝の次第に御座候願はくは記者先生よ御身御大切に長へに情の露をたれ給はんことを、かしこ（宿目文子）

油　本鋪　井善

家庭と衞生

◎醫者と藥（附不良牛乳の注意）

病氣のときに賴るべき者は醫者と藥ですが此の二つが相待つて始めて治療の目的が達せられます醫者ばかりよくても藥の調合法と原料が惡ければ何の效果も得られません茲で私どもでは醫者の處方で作る藥は經驗ある藥劑師に擔任させ尙藥の原料は私どもの試驗室で一々密かに檢査したものを調合するのですから調劑法も原料も確實で藥劑として完全なものです尙私どもの試驗室では、牛乳、飮料水、其他何でも一般飮食物の衞生的化學的檢査の御依賴に應じます夫れで不良の牛乳が小兒衆は勿論總ての御方に及ぼします健康上の害毒は今更申上ずとも御承知の方もありますが摘んで申上ますと是れが爲めに小兒は營養不良に陷り慢性の下痢症を誘起し又大人の方にも不良牛乳が不健康を來す原因となる事等其害は擧げて數へる事も出來ません實に注意すべきは牛乳の良否鑑別であります殊に齊家の任に當る御婦人の身としては乳期のお兒さんには一層の御注意をなさらんければ取り替しの付かん事があります私どもでは此の牛乳檢査は利益上てなく最も便利に御依賴に應じます

尾澤純良堂　神田區今川小路三丁目　大西橋三藥局　電話本局一五一八番
局　主　藥劑師　大西橋三
處方　醫科大學病院　赤十字社病院
調劑所　公私立病院　陸軍御用
調劑部　仝　田中利弘
試驗部　仝　田中義廣

御婦人用
夏ショール
小兒用帽子
夏手袋沓下
敎育玩具
リボン造花
小間物化粧品

東京牛込神樂坂
朝日堂
電話番町一六九

▽元は床店—今は屈指の商人△

日本橋は人形町通りにてめりんすで仕出した店といへば、直ぐにそれと知れる、赤のれんのおばなや。元は愛知縣の機業家なりしも、一朝商機を失するや、赤手上京して漸く人形町通りに床店を開き、一意專心新柄を選び且薄利を旨とし、營業するに幸ひにして家業は順境に向ひ、遂に今日の成功を見るに至れり、昨年末市區改正に際し、新築の營業場に移りてより、今や二三の支店を有し、斯業屈指の商店となれるが、本年は全力を中形ゆたかに注ぎ、市内の重なる中形製造家數軒より、夥しき新柄を仕入れたる由なれば、本年の流行ゆかた地は、赤のれんさへくれば、何でも求められるなるべし。猶値段も出來るだけ勉强すると云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長 醫學博士 榊順次郎 婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保徳太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二 外科一般 泌尿器病 婦人生殖器病及內科 火木土午後診察

婦人科産科 榊病院

●施診火木土自午後一時至二時
麹町區三番町三三（電話番町三九五）

◎婦人科専門 午前宅診
◎小兒科専門 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

腦病脊髓病
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎

◎婦人病専門
芝明舟町十九虎門外宮樣前電話新橋三三二四
院長 櫻井克己
櫻井醫院

內科外科産科
婦人科耳鼻科咽喉
皮膚科梅毒泌尿器科
各専門分擔
芝愛宕町 東京病院 電話新橋（三六四 三六二〇）
院長 醫學博士 男爵高木兼寛

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院內ニ産婆學校アリ

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長 ドクトル 岩佐新
（獨逸留學中） 副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

五月一日より
夏衣大賣出し
總額金壹萬圓の第二回福札ハ引續き相添へ可申候 五十錢均一販賣部は倍々擴張仕便利を計り申候
神田今川橋
松屋呉服店

耳鼻咽喉 病診療
入院應需
淺草區向柳原町一丁目一番地左衛門橋通り
中村醫院
電話下谷壹壹三〇番

◯院長 ドクトル 木村順吉
婦人科産科 木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

京橋區南大工町三
岡田病院
●（火木土）院長醫學博士岡田榮吉
●（月水金）副院長醫學士久野正太郎
●電話本局二四〇一

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

午前宅診午後往診 入院隨時
內山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地柳橋通り（電下一三三六五）

産科婦人科専門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

齒科治療 ドクトル 齋藤清太郎
麹町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）

資本金 壹千萬圓
甘露醤油 ウメニホン
最上醤油 フジニホン
最上醤油 ヒシニホン
天下一品 マツニホン
釀造元 日本醤油釀造株式會社
東京深川小名木川通
電話浪花 三七七三番 一五九五番
●最上醤油以下數種あり
東京酒類問屋組合 其他 酒醤油仲買店及各小賣店に於て販賣致候
特約販賣店
合資會社 日本醤油
東京日本橋區北新堀町
東京販賣所（電話浪花長一四六番）

內科一般
東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

●外科 午後往診 夜間診療
本郷區元町一の十四（淨水地西南隅）
醫學士 三原新太郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

流行の帶留

(拾八金花駒彫價拾二圓)

(廿二金柳櫻彫價二十五圓半)

東京尾張町
(電話新橋五一五一番)

白牡丹本店
(振替口座四三九七番)

(廿二金撫子彫拾六圓半)

(十八金花彫價十四圓)

夏の裝ひを爲せる白木屋

五月一日より夏物珍柄大賣出し

●新案蘆手書は今や浴衣地、裾模樣、友禪染、帶地、帶揚、半襟、ネクタイ等にまで應用致され候

●縞セル、縞ネール等の毛織物は英佛より最新の直輸入に係るものなれば柄行地合御好次第に候

●洋傘、帽子、靴を初め和洋小間物化粧品類は孰れも最近流行の粋を蒐めたるものを發賣致居候

●仕立洋服は引續き大好評に有之今や歐米最新式のもの種々出來合居候間何卒御試用の程願上候

●蘆手書を應用せし十個の人形は非常の喝采を博し居候間御慰みまでに御觀覽の榮を賜度奉希候

◉よせきれ見切反物日々澤山取揃へ置申候

東京市日本橋

白木屋 吳服 洋服 店

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火、木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局八八八(病院用)八九八(私宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地
(御茶水橋畔)
院長醫學士高田耕安

神奈川相州高座郡茅ヶ崎村濱
(停車場所在)

南湖院

河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土午前〇入院診斷隨時應需〇

內科專門 杏雲堂醫院

神田區駿河臺
電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

THE GEM

ゼム

衞生家必携　懷中良藥

愛の婦人

天の愛　土の愛　國の愛　母の愛
愛に生く日本の　婦人こそ尊けれ
願くは躬親ら　先づ愛し健かに
暖かに愛の道　光もて世を看ませ

婦人こそ國の花
「ゼム」の玉少し宛
常日頃含まして
永遠に香ひませ

「ゼム」は頭痛逆上眩暈氣欝を治し舟車の酔を防ぎ、消化を好くして食慾を進め、音聲を美にし、氣分を快くす。殊に馥郁たる芳香人を喜ばしむるを以て、交際界の婦人に愛用せらる。

定價七十五粒入十錢百六十粒入廿錢四百卅粒五十錢九百粒入壹圓容器入廿錢

東京馬喰町二丁目
愛國堂山崎榮三郎
大阪高麗橋二丁目
山崎兄弟商會

カメリヤ洗粉(あらひこ)

◎容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯わる本品の小量を微溫湯に溶解し洗面を試みよ花香芬々として心身爽快を覺ゆるのみならず顏面潔白となりて艶を生じ年若き花の顏となるべし一回の試用斯の如し是れが常用の成績に至りては旣に愛用諸君の實驗し給ふ處にして敢て呶々を要せざるなり

東京 小林富次郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

化粧問答　女優マダム川上貞奴

Question) 近頃流行の西洋髪あらひ(マダム)は毛の爲めにはがいはありませんか?
Answer) マダムは内務省東京衛生試驗所に於て毛髪に對し無害の御試驗濟であります!!!
Question) 洗ひますのに何分間掛ります?
Answer) 微溫湯で僅か一分間に毛を傷めず赤くせず奇麗に髪が洗へ升る最新發明の輕便髪あらひであります!!!
Question) ヤツコマダム原品直輸入元幷に賣捌は何處
Answer) 東京市外神田御成道田代町(電話下谷一三九九)(振替貯金番號四五三九)田中丹治方にて賣捌は東京、横濱、名古屋、大阪、京都、神戸、市内各小間物店賣藥店其他全國到る所に有り若し無き時は隨意の金高を販賣元へ送金次第急送す

Question) 西洋忍化粧(ヤツコ)は何故婦人方より愛用さるゝのでしよう?
Answer) ヤツコは白粉と違ひ手數を掛け顔へ塗りつけるのでなく一寸顔を洗へば忽ち色白く艶を出し顔の小皺をのばし化粧をして化粧と見せず眞に天然の美の如く觀せるからであります!!!
Question) あらひ粉石鹸は又化粧水などで素顔を奇麗にしたのと同樣であります
Answer) 大に趣が違ひ日常愛用すれば日本で俗に謂アクヌケノシタル顔色を顯す事は其特色とする所でありますから論より證據使用て御覽なさいよ!!!

最上醤油(チカサ)

品質ハ ヤマサ印ト少シモ異リナシ

發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衛門

釀造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衛

宮内省御用達

最上醤油之元祖

上(ヤマサ)

開業貳百六拾四年

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社 振替貯金口座五〇貳壹番

◉寶丹は原『コレラ病』の豫防藥として發賣せし良劑にして◉中暑◉霍亂◉痢病◉吐瀉症◉中毒◉心腹痛其他の諸症に大効を奏し普く世人の賞用せらるゝところ今また左の如く新たなる効驗は發見せられたり

日本體育會より御信書の附言

御專賣の寶丹は殺菌力強く且つ細胞の活動を喚起するの肺病の豫防にも適劑なるとを効あるを以て確め候間乍序申添候云々

故に寶丹は軍隊。學校。集會。宴席。寄席等は勿論家庭衛生の常備藥として缺べからざる良劑也

◉本年四月十五日より寶丹御愛用諸君の御便利を圖り定價金參拾錢以上に限り美術優雅の匙を相添へ差上候間何卒一層の御愛顧偏に奉希上候

寶丹本舗　東京池之端仲町貳拾七號所有地　守田治兵衛謹告

家庭向最近發行二大新著

細川潤次郎題字　中村木公編
名流實話 婦人のかゞみ
◎本書は娘時代より妻君となり母となり又姑となる婦人一代の心得と活模範を網羅す
◎本書には大隈伯始め前島、菊地、細川男、樺山伯夫人、中村博士、三輪田刀自等各方面名流實驗談婦人必讀の名著也
◎内容は模範的の女傑、婦人交際法、花嫁の取扱ひ方、姑として姑の婦人悉く適切にして實際一讀三嘆
大版上製一冊 七拾錢(郵税八錢)

實踐女學校講師長谷川岩吉君講述
刺繍獨習書
◎著者學習院女學部其他各女學校に教授多年其の經驗學識を以て苦心の末最も平易に懇切に本書講述す
◎用具の張り方、姿勢、繍地、下繪、絲の配合、寫し方、色合心得、半襟、手柄袋、模樣、寫眞掛額面、花鳥其他繍網羅
◎上村玉絲編纂 ◎大版美本口繪彩色石版 卅五錢 ◎郵税六錢

東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替貯金參貳六番 賣捌各地書店

ラクダ石鹸

本品は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す

定價(大形金廿錢 小形金拾錢)

東京日本橋區本石町三丁目芳香藥舗問屋　本舗井上太兵衛

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

日本興業銀行
東京市麹町區錢瓶町(常盤橋内)
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 四一〇番 三七番 (特)一〇二番

大日本文明協會會員募集
會長伯爵大隈重信

評議員井上、石川、和田垣、嘉納、高田、坪内、上田、浮田、松井、元良の各博士。

入會金 普通會員三圓、特別會員四圓、
會費一ケ月 普通二圓。特別三圓、

本會の目的 宇大の新知識に親炙せしめん爲、歐米最近の名著を和譯して五十卷三萬餘頁の大著述を出版す。

規則郵券二錢封入申込あれ

京橋區南鍋町一ノ二 大日本文明協會事務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一森式座椅子

特許第九〇一〇號

一箇にして甲乙丙丁の四種に變化す

定價

一更紗蒲團付　金六圓五十錢
特製　金七圓

一メリンス友禪又は繻子更紗蒲團付　金七圓五十錢
特製　金八圓

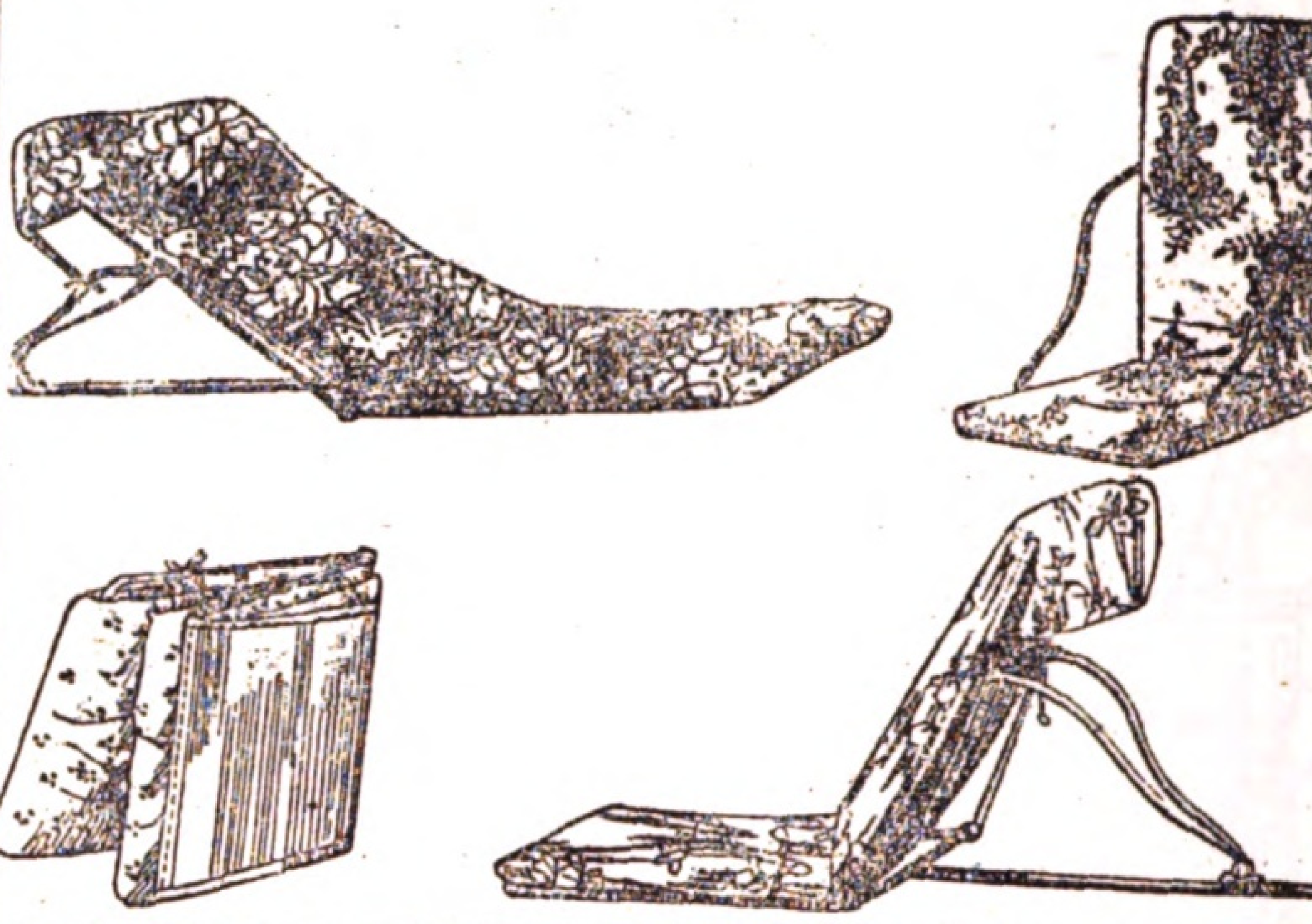
（荷造費運賃共實費）

●右の内上等品は御好みに應ず

東京芝區下高輪廿一番地（東禪寺電車停留場前）（電話新橋三〇六五番）

製造發賣元　樂民堂

特約店　東京大阪　三越呉服店



天下無雙の姉妹雜誌は之れ

女學世界

第六號　五月一日發行　正價廿錢　郵税二錢

兩人の行爲に對する諸家の論評（一）喜劇？悲劇？……內田魯庵（二）一種の色情狂か……三宅雪嶺（三）暗中摸索の片影……長谷川二葉亭（四）葬らるゝ二人……三輪田元道

●育兒の經驗なき母親へ
●平塚明子に贈るの書
●德の婦人と腕の婦人
●里歸りの記（杉浦翠子）
●私塾實驗談（櫻井女史）

●妻となる人の困難なる事情……櫻井ちか子

●人事活斷
●友の結婚
●初夏の記

●平塚明子に贈る書……泊子

△外交官の春ちやん　藤井侶松

◎夫妻同化の秘機　海老名彈正

◎家事を取りつゝ小說を書く私の經驗　大塚楠緒子

▲口繪　繪葉書◎寫眞版數葉　石版◎

少女世界

三卷第七號　五月一日發行

▲正價十錢郵税一錢　郵税共四冊四十二錢　八冊半ヶ年分八十三錢

●口繪　●五月花（彩色石版　鏑木氏筆）●野の少女（彩色石版　荒井氏筆）
●其他珍奇清絶の寫眞數葉

◎お伽小說　綠草紙　巖谷小波
◎少女小說　狐火　木村小舟
◎科學冒險小說　黑百合　鳴海淸陸
◎南朝の歌人（佐々木信綱）
◎名譽の賞牌（山縣文夫）
◎學校小說　義俠心（押川春浪）

●少女訓話　●編物の話　●遊科の話　●少女新聞　●考物新題　●英語問答

東京日本橋區本町　博文館　（郵便振替貯金口座二四〇番）

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

東京本店　堀内伊太郎　大坂支店　全國藥店取次

しらが赤毛の人に告

二瓶一組小冊錢中五拾錢大一圓前金無送料
代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込訣
液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ

毛染所　東京京橋區本材木町三ノ四　岡田商店

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋　一五三〇番　三〇番　三一九三番

同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社　森村銀行
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金　六ヶ月以上　年六分五厘
當座預金　百圓に付日歩　一錢
小口當座預金　同日歩　壹錢參厘

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

バークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはバークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其效力永久不變なり。

醫師及藥舖諸彥！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

御婦人方の最も嗜好する芳香を配合せし摸範香水

（注意）近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

麝香獸印
大瓶　壹圓
中瓶　六十五錢
小瓶　二十五錢

●芳香の永く保つ點にて高評也

ムスク香水

東京日本橋本石町四　松澤常吉

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の解き掃除にも有効てす

定價 拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

商品切手調進仕候

甲斐絹屋

本店 神田區小川町 電話本局四八 振替貯金口座一五〇〇〇
支店 京橋區銀座 電話新橋八三三

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀
裁縫はさみ各種
（定價表は御報次第送呈す）
なごや
（電話浪花八五七番）（振替番號二九四七）東京日本橋てりふり町

デパートメント・ストアー
三越呉服店

和洋 巻莨 シガー 一切
文房具
鞄 靴 折鞄 旅行用 化粧品入 一式
時計 指輪 寶石類 ブローチ 其他
諸大家ノ繪畫 陶器 漆器 銅器 七寶 其他新式ノ日用食器類一式
呉服 洋服 太物 子ル セル 新柄品
香水 香油 石鹸 白粉 齒磨 口紅
傘 履物

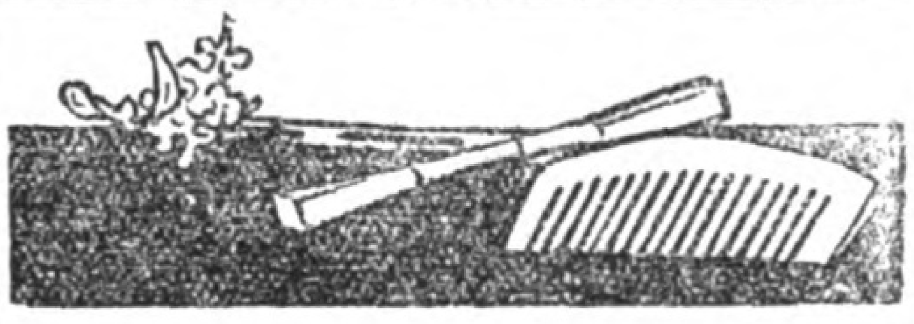
本場の特色
あらゆる物品を最も低廉の正札附にて陳列販賣し市内へ無代價で配達致します
東京新橋角
帝國博品館
日本大勸業場 東京名所

江戸織組
帯締組紐 其外組紐一式

最上醬油
キハク印
於鹽路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信號（キハク）又（ハク）
東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衛



流行の 櫛 簪 金 銀 寶石細工

東京博覽會一等賞牌
西川風琴
オルガン元祖
樂器 十字屋 書籍
電話新橋一二五九
平圓盤發音器
東京銀座三丁目

季節向流行半襟各種
本店 神田表神保町壱番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

胃病良薬 太田胃散

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 同盟
同區南鍋町 廣告社
京華社支店

明治四十一年五月五日發行（毎月五日廿日二回）（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）
發行兼印刷人 山澤俊夫
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録　愛國婦人會記事

愛國婦人會記事

○總裁殿下　長野支部總會に御臺臨の爲岩倉會長、跡見評議員を随へ、本月二日午前八時二十分上野驛を御出發あらせられ、三日總會御臨場、同日御滯在四日午後五時卅四分無事御歸京相成たり。因に御出發當日の主なる奉送者は左の如し。

理事近衞貞子、島津出鶴子代、岡部坻子、監事三井苞子代、評議員東郷鐵子、戸田時子、松平八百子、千家俊子、關郁子、堀光子、高木賤子、佐藤猶子、佐々木芳子、菊池威子、顧問島津忠濟代及東京支部幹事十二名

○評議員會　去月二十九日午後二時より評議員會を開き、大阪支部授產場改築に關する補助及貸與金の件、奧村五百子詳傳に關する件其他總會の準備等に就て議し午後四時三十分閉會せり。當日の出席者左の如し。

岡部理事、三井監事、板垣絹子、東郷鐵子、阿部篤子、井上光子、本莊孝子、松平八百子、原口せき子、濱尾作子、片岡たま子、千家俊子、關郁子、仁尾繁子代、丹羽花子、堀光子、高木賤子、長岡芳子、山脇房子、松浦島子、藤井とく子、江木中子、跡見花蹊、有島幸子、菊池威子、三輪田眞佐子、三井照子、澁谷知和子、仁杉歌子、の各評議員。

尚ほ本月の評議員會は來二十七日第四水曜日に開く。

○茶話會　去月二十二日午後二時、御思召により總裁殿下御邸に於て、東伏見宮、久邇宮、梨本宮の各名譽會員殿下を初め奉り、岩倉會長、一條、毛利、岡部各理事、三井監事、板垣、伊東、東郷等の評議員五十二名並に埼玉、群馬、千葉、岡山、愛媛の各支部長及大久保前埼玉支部長並に岡部松平兩顧問、高橋會計監督、渡邊相談役等へ、茶話會として御陪食を賜りたり。

○遺族接待　靖國神社臨時大祭執行に付左記目録の通り、奉納し、茶菓席は牛ケ淵本會構内に設けて參拜遺族を饗應したり猶ほ紀念品も同所に於て贈與する事とし紀念品引換券は神盃拜戴者に限り、靖國神社にて配與したり。

目録
一　鏡餅　貳重
一　紀念品（扇子）參拜遺族へ贈與の爲　千五百本
一　茶菓　同上　參千人分
一　接待所設置並に裝飾類一式
以上

○總會臨席　去月十九日會長代理千家評議員は東京支部長代理高木評議員と共に府下西多摩郡幹事部總會へ臨席す、

○特別章及有功章御親授　去月二十二日總裁殿下御邸に於て、愛媛支部長安藤菊子へ特別章を、關、山脇、兩評議員へ一等有功章を、片岡、三輪田の兩評議員に二等有功章を各〻御親授あらせらる。

○葬儀會葬　去月二十八日午後二時青山學院講堂に於て、津田評議員實父仙氏の葬儀執行に就き。本會を代表して長岡芳子氏參列せり。

京都總會

愛國婦人會京都支部第七回總會は、去月十九日午後二時をトし、京都岡崎公園平安神宮て擧行された。式場は大極殿。殿の正面には一段高く金屏風打廻らし中央に總裁殿下の御肖像が掲げられてある。

時は春、春は京のことてある。長閑けき春風徐ろに群集盛裝の會員の面を掠め風に連れて花はひら〳〵と散り來るのてある。土地は開濶、天氣は上々。豫定の時刻に參集した總人數五千餘名と註されたのてあつた。

第一鈴と共に參列者來賓は大極殿上西方に、役員は同東方に、一般會員癈兵軍人遺族等は龍尾壇上に整列。第二鈴にて會長岩倉公爵夫人代理岩倉俊子夫人は、支部長大森齡子副長中澤楠猪子八田主事等の案内にて式場に着席、君ケ代の奏樂あり。第三鈴にて川島未菊子開會の辭を述べ大森支部長は明治三十七八年戰役に關する皇后陛下の御令旨を捧讀し、岩倉會長代理は左の總裁閑院宮妃殿下の御諭旨を代讀されたのてある。

愛國婦人會京都支部は年々總會を開き今また其第七回總會の式を擧ぐるに至りしは會運の隆昌と會員諸氏の熱誠に依るものにして欣喜に堪へざる所なり諸氏益々奮て更に將來の發展を期せよ

明治四十一年四月十九日
愛國婦人會總裁載仁親王妃　知惠子

次に大森支部長は左の答辭を朗讀したのてあつた。

愛國婦人會京都支部第七回總會を開くに當り總裁殿下は特に優渥なる御諭旨を賜り我等皷に光榮とする所なり我が支部會務の發展は未だ充分ならずと雖も會員年を逐ふて加はり遺族癈兵救護方法も漸く其緒に就き今日の程度に至りしは他なし總裁宮殿下の夙に會務に御熱心なる結果に外ならず我等感激に堪へざる所なり我等會員は尙ほ倦まず撓まず益々奮勵協力以て會員の增加を圖り同時に事業の發展に努め御諭旨に副はん事を期す玆に謹て答辭を奉る

愛國婦人會京都支部長　大森齡子

次に會務報告、つづいて會長代理より左の有功章及特別謝狀を授與された。

有功章授與者
湯淺たけ子　藤井えい子　牧　豊子
原田とみ子　草木靜枝子
特別謝狀　望月彝子外五人

次に大森支部長より謝狀伴うた子外十四人、賞狀内田みき子外九人に授與を終り次に中澤楠猪子は左の岩倉會長の祝辭を代讀したのてあつた。

愛國婦人會京都支部は會務益々發展し玆に第七回總會を開催せらるるに至りしは久子の深く喜ぶ所なり蓋し總會の開催其度を加ふるは以て會務の發展をトするに足り會務の發展は隨て救護事業の逐次周到に近づくを知るに足るべきなり然れども凡ての事業勵勉已まず能く久しきに堪へて有終の美を成すは世の難しとする所にして亦本會の鑑むべき所ならん來會姉妹方希くは思ひを此に致し鋭意勵精益々本會の主旨の實行に力め深厚なる總裁殿下の臺旨に副ひ奉らんことを以て祝詞となす

愛國婦人會長公爵夫人　岩倉久子

これて式が全く終つた。時は二時半。

こゝに特に附記すべきは、如何に京都支部總會が、他の支部のと選を異にして婦人の會合らしく行はれたかてある。即ち京都支部總會に於て、表立つて働く人は悉く婦人てある。式場に於て總べての事に當るものも悉く婦人てある。この間一人の男子をも交へて居らぬ。尤も男子は裏面て非常の働きをして、婦人を助けては居るが、表立つて働くのは何處までも婦人方ばかりてある。これは特に注意すべき點、京都支部――他の支部とは比較的歷史の長い京都支部の特色てあつて、未だ他の支部には見受けることの出來ぬ特色てある。若し出來得べくんば他の支部に於ても此の模範を學んて欲しいとは、當日われ等の感想てあつた。

愛國婦人會會員女子人口比較表　明治四十一年三月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	賛助員
石川	四七四	一、五二〇	一、九九四	三四六	一九、二四二	一九、五八八	二一、五八二	三八五、四七八	五、六〇	六七
山口	一五二	七七六	九二八	一、〇二〇	二五、一一三	二六、一三三	二七、〇六一	五〇六、九二〇	五、三四	八
山形	一六八	八四〇	一、〇〇八	六一〇	二一、二二七	二一、八三七	二二、八四五	四三九、六一八	五、二〇	一〇四
廣島	三九三	一、九五〇	二、三四三	九六三	三〇、〇三七	三一、〇〇〇	三三、三四三	七四六、六五五	四、四七	九
愛知	四七五	一、一一二	一、五八七	一、八〇二	三四、三四八	三六、一五〇	三七、七三七	八六八、五五八	四、三四	八七
福岡	三〇三	六六一	九六四	二、四九六	二九、七六四	三二、二六〇	三三、二二四	七七二、七四三	四、三〇	四
岡山	二三五	八八四	一、一一九	三七五	二二、七九八	二三、一七三	二四、二九二	五七七、二七二	四、二一	一二
兵庫	五四三	一、七四五	二、二八八	一、二三九	三三、三一二	三四、五五一	三六、八三九	八九三、七三四	四、一二	一七
神奈川	一八六	一、五七三	一、七五九	七三八	一七、二五六	一七、九九四	一九、七五三	四九九、六二三	三、九五	四二
島根	一〇九	三四〇	四四九	三四五	一三、三四五	一三、六九〇	一四、一三九	三六二、六三五	三、九〇	丨
愛媛	八九	四六七	五五六	二九四	一八、五〇四	一八、七九八	一九、三五四	五一一、三九六	三、七八	四五
富山	一二三	九二四	一、〇四七	一七六	一三、一五八	一三、三三四	一四、三八一	三八四、九八二	三、七四	丨
北海道及函館	二九六	二、九八三	三、二七九	三五五	一五、三〇四	一五、六五九	一八、九三八	五〇七、六二八	三、七三	六二
京都	四二七	二、一一五	二、五四二	五四六	一六、三二八	一六、八七四	一九、四一六	五二〇、五六五	三、七三	一二〇
熊本	二七一	二、六二六	二、八九七	三八六	一八、〇八六	一八、四七二	二一、三六九	六一〇、四一一	三、五〇	一五
香川	二一四	六〇八	八二二	五一三	一〇、四一一	一〇、九二四	一一、七四六	三四七、八九〇	三、三八	丨
青森	一九九	一、一七九	一、三七八	三六六	九、〇二八	九、三九四	一〇、七七二	三二二、二一一	三、三四	一〇
群馬	一一七	一、三四六	一、四六三	一八八	一三、四八九	一三、六七七	一五、一四〇	四五四、一七一	三、三三	二
秋田	二二三	六一〇	八三三	四二八	一二、一五三	一二、五八一	一三、四一四	四〇三、九四六	三、三二	五
宮崎	七九	三三〇	四〇九	一五七	七、五六六	七、七二三	八、一三二	二四七、二五五	三、二九	一九
長崎	一、二六〇	二、三二〇	三、五八〇	一、一二六	一〇、五四七	一一、六七三	一五、二五三	四八九、八五〇	三、一一	二
佐賀	一二七	七八一	九〇八	一二六	八、七七二	八、八九八	九、八〇六	三二七、六七八	二、九九	二
福井	八六	七五四	八四〇	一四〇	八、〇五三	八、一九三	九、〇三三	三二〇、一五四	二、八二	二
大分	一二三	七四二	八六五	二六七	一〇、九一八	一一、一八五	一二、〇五〇	四三〇、〇二五	二、八〇	五
宮城	一九五	一、二七二	一、四六七	二〇五	一〇、二八九	一〇、四九四	一一、九六一	四四五、〇四七	二、六九	一二
栃木	一四九	七〇五	八五四	三七三	一〇、七二〇	一一、〇九三	一一、九四七	四五〇、一二六	二、六五	七
三重	一一一	三二三	四三四	五二一	一二、七九九	一三、三二〇	一三、七五四	五二二、〇四五	二、六三	六九
長野	一八一	一、〇一九	一、二〇〇	八四八	一四、六三五	一五、四八三	一六、六八三	六七四、七二五	二、四七	一二一
大阪	五八四	二、八四八	三、四三二	七九八	一六、〇二九	一六、八二七	二〇、二五九	八六三、四〇五	二、三五	五四
奈良	三六	二五三	二八九	一三九	六、〇四三	六、一八二	六、四七一	二七八、一九二	二、三三	丨
岩手	七二	五九〇	六六二	一七一	七、五五八	七、七二九	八、三九一	三六九、二七八	二、二七	一
德島	七八	二七九	三五七	三七五	七、二二二	七、五九七	七、九五四	三五二、六〇八	二、二六	五
東京	一、三四六	七、四三七	八、七八三	一、〇六〇	一六、二八二	一七、三四二	二六、一二五	一、一五七、五一四	二、二六	六五
福島	二五六	一、〇一三	一、二六九	五四六	一〇、三五九	一〇、九〇五	一二、一七四	五八二、一五六	二、〇九	一
高知	三七	二二一	二五八	二二〇	六、一五五	六、三七五	六、六三三	三一八、二四五	二、〇八	丨
靜岡	一四一	五五八	六九九	六八〇	一一、九四一	一二、六二一	一三、三二〇	六四〇、八四八	二、〇八	二
滋賀	一一六	三三六	四五二	五〇二	五、八三四	六、三三六	六、七八八	三六四、六八八	一、八六	丨
千葉	一七三	八八一	一、〇五四	四六五	一〇、四三八	一〇、九〇三	一一、九五七	六五九、七八二	一、八二	二八
山梨	五九	三三八	三九七	一八五	三、八一九	四、〇〇四	四、四〇一	二七三、一四八	一、六二	丨
茨城	六七	四七一	五三八	二五二	八、九六〇	九、二一二	九、七五〇	六〇〇、四一五	一、六二	一
埼玉	八三	二九六	三七九	四四五	九、二九九	九、七四四	一〇、一二三	六二七、五四六	一、六二	五八
新潟	二七一	九二八	一、一九九	七一七	一二、五二五	一三、二四二	一四、四四一	八九九、〇二二	一、六一	五八
和歌山	五七	二五三	三一〇	一九八	四、〇三五	四、二三三	四、五四三	三五〇、〇六九	一、三〇	一
鹿兒島	一二六	一、〇八四	一、二一〇	一八二	六、三〇三	六、四八五	七、六九五	五九四、六八五	一、二九	八
鳥取	三六	一五五	一九一	七一	二、一八七	二、二五八	二、四四九	二一七、五四一	一、一三	五
岐阜	九九	七〇一	八〇〇	一七五	四、四六一	四、六三六	五、四三六	五〇二、六五八	一、〇八	一
臺灣	七三五	六〇五	一、三四〇	二、七七一	九、六九九	一二、四七〇	一三、八一〇	一、四〇二、七七一	〇、九六	二五
沖縄	四二	三一一	三五三	四五	一、七四八	一、七九三	二、一四六	二三九、五二七	〇、九〇	丨
海外	丨	七六〇	七六〇	丨	二、一八四	二、一八四	二、九四四	丨	丨	二、七一五
計	一二、九二二	五三、六二三	六六、五四五	二六、九四三	六三〇、二八四	六五七、二二七	七二三、七七二	二五、三二一、〇四〇	二、八五	三、八七六

備考（一）支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す
（二）北海道及函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別五百十四人（終身六十人年賦四百五十四人）通常千八百十六人（終身七十六人年賦千七百四十人）にして他は北海道支部會員數なり
（三）海外の分は報告未濟に付終身會員並に年賦會員の區別を爲す事能はず暫く從前の報告を以て增補せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部記事

▽東京支部近況△

□西多摩郡幹事部　第一回總會を四月十九日午後一時より開く。此日本部よりは會長代理千家評議員、支部長代理高木評議員、黑田事務員、支部よりは淸水主事河邊、和久井の兩事務員井に神谷愛國婦人記者出張されたり。青梅小學校體操場なる式場には、周圍に紅白だんだらの幔幕を張り廻し、入口に交叉したる大國旗の下に受附ありて、遺族癈兵井に會員に辨當菓子折、紀念扇子同繪端書を交付す。式場正面には質素にして而も野鄙ならざる假屋を設け、なほ青竹を以て場內を數劃に分ちて來賓、遺族癈兵、會員、役員の席を定め場の四側を各町村會員遺族癈兵の休憩所に充てたる樣一絲亂れず整然たり。其他有志の寄附に係る數十點の生花、餘興なる大神樂の小屋掛け等、雅俗併せ得て來會者の心を迎ふるなど、用意周到なり。時恰も校庭の櫻花爛熳として咲きも殘らず、爲に一段の光彩を添へたり。されば會場さして來るもの踵を接し、會員約九百名を算し、府會議員郡會議員各町村長學校長警察署長、金田南多摩郡幹事部長同事務員、丸山豐多摩郡幹事部長同事務員等來賓約五十名、遺族癈兵二百名に達し、さしもに廣き式場も人を以て埋むるに至れり。午後一時式は左の次第を以て擧げらる。

○第一鈴

一　招待員、幹事部職員、會員整列

○第二鈴

一　會長、支部長臨場
一　顧問開會の辭
一　奏樂（君が代）
一　幹事部長令旨捧讀
一　會長及支部長告辭
一　幹事部委員事務報告
一　功勞者へ謝狀授與
一　來賓演說
一　會員祝辭演說
一　會員總代答辭
一　奏樂

○第三鈴　休憩

時正に二時半。それより餘興に移りて來會者は歡を盡し、實に近來稀れに見るの盛況なりき。

▽香川支部近況△

□資金增殖に關する報告　本會の目的たる軍人遺族及癈兵の援護事業を永久に繼續せんとするには、基礎の確實を期せざるべからず。殊に當支部の如き旣に救護の方法を設け、之を一般に發表せし上は、今日に於て之が持久の策を講ずるは、誠に急務なりと相信候。然るに現在の會員は概ね明治卅七八年の入會に係り、今後數年を經過せんか、殆んど終身會員となり年醵金の收入なく救護の實に缺額を來すを以て、漸次補缺會員の募集を計らざるを得ざるは勿論に有之候處、抑當支部は明治卅四年七月の創立にして、同卅五年二月本職就職の際は、創立日尙淺く會員は僅々十五名に過ぎざる狀況にして本會の趣旨未だ徹底せざるの感あり、依て役員をして奮勵に努めしめ、地方の名望家に說き、又奧村女史を招聘し、各地に講話會を開き以て本會の趣旨を一般に周知せしめ、明治卅八年十月第一回總會を開き、總裁殿下御名代の御臨場を辱うし、爾來會務大に發展し、今や一萬一千餘名の會員を有するに至りたるは洵に　總裁殿下の御高德と會長閣下の御熱心とに據ると雖も、日露戰役の結果、出征軍人に對する後援心の興起も亦一原因と相信候、斯の如きを以て將來會務の擴張幾務の發展は自ら期すべきが如しと雖も、日露戰爭は未曾有の事變にして、之に處する國民の熱誠は、熾烈を極め、故を以て斯る成果を得たるものにして、博愛の婦女は殆んど之を募了し、加之年一年と戰熱の冷却するは、自然の趨勢なるが故に、今後數年の後に於て、終身會員補缺の爲め、更に一萬人以上の增募を計るは、頗る困難のことなるを以て、嘗て資金制度の方法を講し、冗費の支出を戒め、專心基金の增殖を計りたる結果、別表の如く昨年末に於て、各種資金を通じ、約一萬五千圓を積立得たるに付、此際豫定不足の會員を增募し、而して每年會費より、收入する剩餘金及其年の利子金を漸次積立增殖を計るときは、會費の收入に於て年々一割の未納金ありと假定するも、十ヶ年の末に至り、約八萬四千餘圓の元資を得、更に之を國債證書に代ふるときは、元資高約拾萬餘圓（國債證券額面百圓に付八十四圓替へ）に達し、一ヶ年五千圓の利子を得るに至り、事業費及經費を支辨して尙若干の剩餘金を生じ、會費の收入を俟たずして、事業を經營し得る見込相立候に付、目下の急務たる豫定會員補足募集の方法を講ずる爲め、不日臨時幹事會を開く豫定に有之候　右及報告候也

明治四十一年四月七日　香川支部長小野田安子

各資金十ヶ年間積立金額

年別＼金額	元資金	資金積立高及利子	計
四十一年	一五、三三二　三五九	七、三三四　四八七	二二、六六六　八四六
四十二年	二二、六六六　八四六	七、三六六　一七二	三〇、〇三三　〇一八
四十三年	三〇、〇三三　〇一八	七、八二七　四八〇	三七、八六〇　四九八
四十四年	三七、八六〇　四九八	八、一九五　九一四	四六、〇五六　四一二
四十五年	四六、〇五六　四一二	八、三三四　七六〇	五四、三九一　一七二
四十六年	五四、三九一　一七二	八、五三〇　〇一八	六二、九二一　一九〇
四十七年	六二、九二一　一九〇	七、七二九　五八九	七〇、六五〇　七七九
四十八年	七〇、六五〇　七七九	五、四〇〇　二〇八	七六、〇五〇　九八七
四十九年	七六、〇五〇　九八七	四、六二六　九四九	八〇、六七七　九三六
五十年	八〇、六七七　九三六	三、六五七　五五六	八四、三三五　四九二

備考

一　本表四十一年元資金は四十年末に於て各種資金を通じ積立得たる金額にして其種類は左の如し
一　金參千貳百貳拾貳圓八拾五錢　支部基本金
一　金壹萬百八拾貳圓九錢四厘　支部救護金積立高
一　金八百貳拾八圓貳拾參錢五厘　支部援護事業費資金
　但縣知事より明治卅九年十二月を初期とし向ふ十ヶ年間補助の帝國軍人援護會配付金に對する利子金にして明治三十九年下半期分及四十年分の交付金を增殖せしものなり
一　金貳百六拾八圓七拾五錢壹厘　事業費寄付金
　但元讃岐婦人慈善會員より支部事業費を指定し寄付せしものなり
一　金參百四拾圓貳拾六錢九厘　經費資金
　但經費補足を指定し民間有志者より寄附せしものなり
一　金四百九圓拾六錢　臨時積立金
　但年々經費の內より積立たるものなり

△熊本支部近況△

□支部例會　去四月廿日赤十字社支部に於て熊本支部例會を開く、押川支部長、石原支部副長、以下幹事會員四十五名支部よりは吉田、島田、村上の三事務員、南木、四行氏の精神修養の講話に引續き、筑山女史は時節柄ぼら料理の會席獻立より、一々作り方の說明を爲し、最後に實地に講習せられたり、次に吉田事務員會務報告あり、午後四時散會せり、

▽北海道支部近況△

□雨龍村委員部總會　空知幹事部內雨龍村委員部に於ては第一回總會と同時に、赤十字社員總會を兼れ、四月十二日午前十一時三十分、雨龍小學校に於て開かれ支部よりは評議員國澤條子、同酒居君子、事務員小池九一の諸氏臨席す、村長岩橋佐吉開會の旨を告げ次て山口空知支廳長（顧問）は　總裁閣下の御尊影を開扉し奏樂の間に一同起立敬禮あり、次て岩橋分區委員赤十字社へ賜たる　勅語令旨を奉讀し、次に國澤評議員、愛國婦人會へ賜たる令旨を奉讀し、次て同幹事赤十字社支部長の祝詞次に國澤評議員、愛國婦人會支部長の祝詞を代讀し、次に內海總代人の演說次に發起者總代として、石立中三郞の祝詞、次に幹事鍋飼朋子の答辭次に酒居評議員支部長より贈與すへき賞品を功勞者鍋飼朋子外九名に授與し、次に岩橋村長會務を報告し、引續協議事項に移り、左記の規約を協議し、滿場一致を以て可決し、玆に兩殿下の御尊影の帷を閉つ、岩橋村長閉會を告げ終りて來會員一同に酒肴折詰辨當を配付され、餘興としては擊劍、福引等あり、各自充分の歡を盡し、同幹事發音に和して萬歲を唱へ午後四時散會を告げたり。當日來會者は婦人會員七十一名來賓生徒及赤十字社員を合すれば約三百餘名にして、開村以來無類の盛會なりき。元來雨龍村は石狩國中有數の平原にして、蜂須賀公爵家戶田子爵家の農場にして、住民相和し一致團結せり。左に當村會員申合規約を揭ぐ

第一條　本會員は博愛慈善の趣旨を體し、相互に親睦を旨とし、一致以て本會の振興を計り、各自其分を格守し、一般の模範となり、苟しくも會員たるの體面を汚損せざるものとす、

第二條　會員は左の各項を遵守し之が勵行に努むること、

一　分限を守り節約を旨とすること
二　各自業務に勵精し、公共事業に盡力するは素より進んて地方適切の副業を起し、村內普及に努むること
三　誠て信義を重んじ集會等の節は、豫著の時間を嚴守すること
四　會費は指定の期日內に必ず納付すること
五　勤儉貯蓄の美風を養成し、金額の多少に拘らず每月貯蓄をなすことに努むること

第三條　會務上の會合軍人送迎等の節は可成出席するものとす

第四條　本規約は明治四十一年四月十二日より實施するものとす

▽靜岡支部近況△

□周智郡招魂祭　去月十二日縣下周智郡森町天宮神社境內に於て、全郡出身西南役以降陸海軍人戰病歿者百十二名の招魂祭擧行に際し、當支部より田中主事及事務員壹名出張、參拜遺族に對し、一場の挨拶をなし、全郡幹事部よりは茶菓及紀念品として、風呂敷一枚宛を配附し尙幹事部長以下森町及近村會員は專ら遺族接待の任に當り、茶菓、供物、神酒、折詰、辨當、紀念品等を配付し其他模擬店、餘興場の案內等始終優待慰藉に努めたり、

招魂祭餘聞、周智郡役所員は招魂祭當日三日前より現場天宮神社へ出張し殊に前日は郡內各町村長總掛にて諸般の準備に鞅掌したり、森町井に近村在住の愛國婦人會員は數日前、周智郡役所內に參集して當日の遺族接待に關する諸般の打合せをなし、招魂祭當日は大澤幹事部長以下二十餘名の婦人會員出張して最も懇篤に遺族一同を接待し慰藉したれば何れも非常に滿足せり當日周智郡奬兵會より遺族一同に贈付したる酒、折詰紅白餅並に招魂供物として立派なる三組の菓子折の外赤十字社周智郡委員部及び愛國婦人會全幹事部より意匠を凝らしたる紀念の風呂敷一枚宛を贈付したり。殊に濱松聯隊將校團よりは紅白の大鏡餅（二斗）一重ね宛又森町よりは酒樽二本を神前に供へられたり、尙森町よりは當日出席の在鄕軍人三百餘名に酒肴、團飯を學校生徒に供の餅を分配し外に餘興として相撲茶番狂言模擬店等を寄付したり、又當日並に前日共大石町長役員並に委員四十名出席し熱心に斡旋の勞を取りたり。佐藤禰宜森岡禰宜等神職數名は前日より出席し何れも誠意を盡して斡旋盡瘁せられたり。當日生憎の雨天なりしに拘らず遺族七十餘名出席し長時間に涉る儀式擧行中最も靜肅に紀律正しく控へ居たるには、江木聯隊長外來賓一同に多大の感動を與へり。森町高等小學校生徒及び同尋常小學校生徒一千餘名は降雨中祭場の周圍に整列し、儀式終日に至るまで神妙に教官の指揮に從ひたり。儀式了る後來賓一同を神社の舞殿に請じて宴會を開き尙同夜森泉樓に於て慰勞會を催し江木聯隊長外來賓一同周智郡役所員各町村長三十餘名出席し歡を盡して散會したり。秋葉馬車鐵道會社は當日來賓の送迎に付き特に馬車一輛を寄附したり。

▽熊本支部近況△

▽飽託郡幹事部內日吉村　に於ては、四月十二日午後一時日吉尋常高等小學校に於て會員總會を開けり、出席者支部より石原支部副長、佐野豐田尾藤田屋の諸幹事。南木講師、吉田事務員、飽託郡幹事部よりは奧瀧部顧問代理、平岡郡書記、宇田川事務員、日吉村幹事高森岸子高杉津興子以下會員百四十餘名、同村委員甲斐村長以下有志等總數約貳百名に達し、定刻に至り甲斐委員開會の辭を述べ君が代の奏樂あり、三十七八年戰役の際本會に賜はりたる皇后陛下の御令旨を奉讀し、次に佐野支部幹事は支部長の祝詞を、平岡郡書記は幹事部顧問の祝詞を代讀し、次に吉田事務員支部の狀況を報告し、南木氏の講演あり、夫れより茶菓の饗應あり、餘興として蓄音器音樂隊末廣亭末廣の浪花節等ありて散會せしは午後六時なりき。當日は雨天なりしにも拘らず、非常の盛會なりし。因に同村は高森幹事其他有志の盡力に依り、目下百五十名の會員を有し尙ほ續々入會者を得つゝありと云ふ。

▽福岡支部近況▽

▽遠賀郡幹事部內戶畑町　に於ては四月七日同町演劇場內に同町會員總會を開催せり。會員の集まるもの八十餘名正午十二時を報ずるや、先づ風琴バイオリンの合奏にて國歌を奏し、次に大神町長は幹事に代り開會の辭を述べ、廣辻幹事部顧問は本會の起源より今日に至る迄の來歷と將來の希望とを詳細に演述し、來會者一同に感動を與へ、其他祝詞演述、會員の會務報告等あり、式終て後質素なる折詰の辨當を饗し、午後に至りては種々なる餘興を催し、大に盛會を極めたり。當日來賓としては町會議員を始とし有志者在鄕軍人等貳拾有餘名なりしと云ふ。

▽韓國本部近況△

□感謝狀到達　去月中韓國宮內府大臣より左記の通感謝狀到達せり。

敬啓頃日は貴會より慈善の意を以て、巧妙なる活動寫眞を映寫せられ、我兩宮陛下御覽遊ばされ、御嘉賞の聖諭を下されたるにより、本大臣に於て玆に傳達し以て感謝の至意を表し候に付此段御亮承可被下候

隆熙二年四月十三日

大勳宮內府大臣李允用

愛國婦人會韓國本部長鶴原誠子殿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部記事

▽長野支部近況△

▽第一回總會　去る三日を期し長野市に其第一回總會を開くに付總裁閑院宮妃殿下には二日上野發の下り一列車にて御來縣に付支部職員は前日來之れが準備に忙殺せられつゝあり其會員は昨年五月の現在員は僅々五千有餘に過ぎざりしが會員の增募と事務の整理とに盡力せる結果本年三月末の調査は特別會員千三百二十七人通常會員一萬五千六百三十八人賛助員九百廿三人合計一萬七千七百八十八人に達し今回の總會に出席の申込みを爲せし者既に約八千人に上れりと云ふ猶ほ軍人遺族の參會申込者二千人以上に達したる由

▽京都支部近況△

□竹野郡幹事部　去月二日午前十時より網野小學校に於て愛國婦人會竹野郡幹事部第二回總會を開かる同會は折しも桃花滿開の好時機なれば同町桃山に於て園遊會を兼ねて開催の豫定なりしが前日來雨天のため會場を同校に轉じたるなり君が代の奏樂にて式を始め聖旨奉讀、支部長告辭、會務報告、幹事部長答辭、功勞者謝狀授與等の順序にて式を終り一同食堂に會して折詰の饗應を受け撮影、蓄音機、綴引等の餘興ありて午後四時散會せり來會者三百餘名に上り内會員二百餘名を占め婦人の會合としては未曾有の盛會なりき。

▽鳥取支部近況△

□入會勸誘中なる事は既報の如くにて各郡とも多數の入會者ありて隆盛を極めつゝあるが三月中入會者の縣廳へ報告せしものは西伯郡の六百七十九人、東伯郡の百二十八人、日野郡の七十五人にて他は報告未濟なるも何れも成績良好なりと聞く

▽長野支部近況△

□北佐久郡委員部　第一回總會去月八日午前より小諸小學校講堂に開會會員職員來賓一同着席渡部郡長の開會の辭同令旨捧讀井出れん子の幹事部事務成績報告八木與一郎氏の長野支部長答辭赤羽根こう子の答辭來賓の祝辭會員總代赤羽根こう子の祝辭等あり渡邊郡長の閉會の辭にて全く式を閉ぢ本部遊說員富樫女史及宮下氏の講話あり終て蓄音機の餘興あり出席會員約百七十名頗る盛會なりき。

△大町委員部　去月十八日大町小學校内に於て第二回總會を開會す當日は橋田郡長及び日本赤十字社看護婦長片桐小吟氏其他有力者の有益なる講話あり尙餘興として茶話會を開き福引大町補習學校生徒の唱歌遊戲等ありたり

□浦里村　小縣郡同村にては四月五日總會を小學校に於て開く一同着席し君が代合唱、皇后陛下令旨奉讀池田榮太郎氏の式辭、武井小縣幹事部長の祝文、渡邊浦里郵便局長の祝詞、唱歌、乾主事、富樫本部遊說員の講話ありて閉會當日は會員外軍人遺家族、癈兵等の參會者多く盛會なりし

▽靜岡支部近況△

△田方郡田中村　會員は去十二日田中尋常高等小學校に於て春季總會を開けり當日は田方郡幹事部長鈴木たよ子臨席會旗を傳達し式辭を述べられそれより會務の報告、青木校長及び積穗六亮氏の有益なる講話、餘興として生徒の學藝、彈琴數曲、お伽噺等ありて盛會なりき因に全會は幹事渡邊くに子穗積ふさ子の熱心により會運益々發達し目下會員二百六名ありて尙ほ入會を希望するもの多しと云ふ。

▽新潟支部近況△

愛國婦人會臨時救護　去月八日夜新潟市火災に付軍人遺族及び癈兵の罹災者中左記五名に對し同會は今回臨時救護金を贈與されしと

一金三圓　故步兵上等兵　齋藤熊藏　父　齋藤五藏
一金三圓　故步兵上等兵　藤村清作　父　藤村五三郎
一金三圓　故三等巡査　長野政豐　母　長野カツ
一金六圓　故步兵三等卒　藤田金太郎　父　藤田治郎吉
一金六圓　故步兵軍曹　齋藤粘次郎　父　齋藤仙藏

千葉支部香取郡幹事部中和村委員部總會出張報告

富樫眞喜子

三月二十八日午後二時兩國發、同三時四十分千葉驛に着す、案內者なきを以て先づ縣廳に至りしに、本會支部事務所は赤十字社支部內にありとの事にて、又同支部に至り事務員手代木秀雄氏並に篤志看護婦人同主事縣幹氏に面會せり。夫れより石原支部長を訪ひ再び支部に歸り、手代木氏の案內にて旅館梅松に投す、同七時永井主事同八時石原支部長來訪されたり。

同二十九日　午前十一時中和村委員部總會擧行に付き、午前七時一分鈴木副長手代木事務員同行千葉驛發旭町驛にて下車、此處より腕車を驅りて約一里半の道程を進み、會場なる中和學校に着す時正に十時半なりき、椎名幹事部事務員は途中まで出迎ばれ、大賀顧問同幹事部長を始め須田幹事木內同委員各有志學校職員は會場に待受けらる、暫時休憩、時は開會に迫するも來會者少數なるを以て、鈴木副長大賀幹事部長須田幹事及自分の四人は木內委員の宅に休憩所を變せられ、開會の時來れば通知するとの事にて、助役の案內に連れ木內委員の方に赴きたり、時は次第に移り一時を報ずるも二時を報ずるも尙ほ通知なきを以て已むなく待ち居たりしが、漸く二時半頃に至り案內ありたれば、即ち會場に至り之を見しに約三百餘名の參會者あり、二時四十五分開會の合圖あり、鈴木副長以下着席す、先づ木內委員式辭を朗讀し次に同學校長本日發會式を擧ぐる中和村婦人會規則並に會員服務規則の如きものを朗讀し、次に鈴木副長愛國婦人會委員部總會の祝辭を朗讀され次に自分講話を爲せしも、時刻の大に移りたると又自分の後には大賀郡長の演說もあり且つは支部より遺族癈兵へ菓子料の授與杯もありて、時間を費す事なれば約三十分間許にて之を了り、鈴木副長は夫々菓子料を贈與し、我等一行の此校を辭し歸路に就き旭町に着したるは午後五時にして、夫れより直ちに同驛を發し千葉驛に歸着したるは午後七時二十分なりき當日は純然たる愛國婦人會委員部總會にあらず、中和村婦人會の發會式を兼ねたる如き會合にして、且つ前記の如く時間の後れたる爲め、十分本會の趣旨に付き、又將來の希望に付き、尙ほ婦人の盡すべき職分等に付き、講話を爲し得ざりしは實に遺憾なりき。

同三十日　午前七時三十分千葉發歸會せり。

宮城支部遊說記

中野彌知子

第一回報告

三月二十一日　午前十一時十五分仙臺發列車にて山形評議員石森主事同行亘理郡逢隈村に向ふ、零時十分亘理驛に着、牛田幹事部長武田幹事丹野石川會員佐々木事務員等の出迎を受け時間切迫せるを以て直に腕車を驅り一時着會場なる小學校に入る、二時開會、當日大雪なりしも伊藤村長か非常なる熱心に依り、聽衆三百五十餘名の多きに達せり、時に牛田顧問轉任地に事務引繼の爲め出張中なりしかば、佐々木事務員淸水郡書記同行佐々木事務員開會の辭を述へ了て講話、能く趣旨を靜聽せり、五時二十分閉會多數の會員吹雪を物ともせず四方に散亂する樣恰も雪中行軍の如し、直に腕車を驅りて亘理町に引返せり、山形評議員石森主事は六時三十分亘理發列車にて歸仙、自分のみ同町富澤家武田吉平氏宅に宿泊せり。

同二十二日　午前山形評議員石森主事武田氏に着、直に腕車を驅りて山下村に向ふ、牛田幹事部長武田幹事丹野石川會員淸野郡書記佐々木事務員同行十二時着、會場小學校に入る、二時開會、聽衆三百餘名、佐々木事務員開會の辭を述へ了て講話五時閉會、直に腕車を驅り亘理驛に向ふ、同驛六時三十分發列車にて一同歸仙、奧田旅館に宿泊せり、因に記す今回講話會に付き武田幹事非常に斡旋の勞を執られたり。

同二十三日　午前九時宮城郡八乙女幹事部長來訪されたり、九時三十分仙臺發列車にて奧宮副長幹事部長石森主事安部郡書記同行鹽釜に向ふ、十時着佐藤松本須田太田小野會員坂宮助役の出迎を受け、鹽釜神社々務所に入る、暫時休憩の後一同神社に參拜、午後二時社務所に於て開會、聽衆百五十餘名、八乙女顧問開會の辭を述へ了て講話、五時閉會、夫より一行は當地に於て熱心なる水沼幹事を病床に訪ひ、前に出迎ばれし諸氏に見送られ、五時三十分鹽釜發の列車にて一同歸仙奧田館に宿泊せり、當日多賀城に於て熱心なる天龍幹事も出席されたり。

同二十四日　午後一時仙臺發列車にて、奧宮副長八乙女幹事部長石森主事安部郡書記同行岩切村に向ふ、一時二十分着三浦永野安久津今村菊池氏外會員數名多賀城天龍幹事の出迎を受け、會場なる東光寺に入る、二時開會、當日は雨天なりしを以て、聽衆百餘名、安部郡書記開會の辭を述へ了て講話、五時閉會、幹事會員十六七名に見送られ、五時三十分岩切驛發列車にて歸仙、奧田旅館に宿泊せり、當日天龍幹事同行歸仙、多賀城方面の會員募集方を依頼せり。

同二十五日　零時二十分奧宮副長八乙女幹事部長石森主事安部郡書記同行、腕車を驅り原町に向ふ、會場なる小學校に入る、聽衆百餘名八乙女顧問開會の辭を述へ了て講話、五時三十分閉會、後榴岡公園內梅林亭に於て晩餐會あり、了て奧田旅館に歸宿せり。

同二十六日　休會

同二十七日　午前九時仙臺發列車にて石橋副長石森主事と共に遠田郡小牛田町に向ふ、十一時着近藤幹事部長並に涌谷舊城主未亡人亘理山中幹事會員十餘名木村町長の出迎を受け、一同腕車にて會場なる農學校に至る、午後二時三十分講堂に於て開會、聽衆大人のみ二百五十餘名伊藤事務員開會の辭を述へ了て講話、能く趣旨を靜聽せり、五時閉會、後直に腕車を驅り幹事部所在地なる涌谷町に向ふ、六時二十分着瀨田旅館に投す、直に一行は亘理家に於て催されたる晩餐會に臨み懇談快語數刻に亘り、了て瀨田旅館に宿泊せり。

同二十八日　午前九時亘理若尾夫人の案內にて、同家廣庭なる養雞を一覽し、午後二時三十分小學校に於て開會、聽衆二百餘名、伊藤事務員開會の辭を述へ、了て講話、五時二十分閉會、當日は片足切斷の癈兵黑江總三氏出席されしを以て聽衆の感し一層なりき、夫れより直に石橋副長近藤幹事部長亘理山中兩幹事石森主事と共に前癈兵を自宅に訪ひ、家計貧困にして病中なるを以て金壹圓を贈與す、歸て瀨田旅館に宿泊せり、亘理幹事の懇請に因り、當遠田郡內大村兩郷に於て來る二十日特に講話會開催の約あり。

同二十九日　午前石橋副長石森主事近藤幹事部長亘理若尾夫人山中幹事成田夫人伊藤事務員と共に腕車を驅り田尻町に向ふ、同十一時四十分着同町富澤家菊地辯藏氏（夫人幹事）の別莊に入る、午後二時寺院に於て開會、當日は同町祭典なるを以て聽衆僅かに二百餘名伊藤事務員開會の辭を述べ了て講話、五時閉會、後祭典に付き菊池氏一手の寄附に係る盛大なる太鼓舞臺俳優の踊舞臺の餘興を一行の爲め延期したるを一覽し、夫れより同氏本宅に於て晩餐の饗應を受け、蓄音器の餘興あり、了て一行は同氏別莊に一泊せり、近藤顧問は縣廳出張中に付き出張せず。

●婦人の好侶伴!!
●家庭の好讀物!!
婦人畫報
五月の卷　價二十五錢稅一錢半
寫報　▲竹の園生▲名士の家庭▲學窻の花▲人形病氣▲各女學校卒業生▲捧腹絶倒▲奇緣▲趣味深き生活▲女禮式▲店內裝飾等の寫眞六十餘種
記事　▲女性と和歌（大隈伯）▲流行▲史談娯樂小說等頗豐富及▲飯（龜井女史）▲改良服▲お伽談と家庭（巖谷氏）▲育兒の手引（鷲山女醫）▲後妻を迎へし經驗（三輪田學士）
東京神田小川町　東京社

女鑑
五月號　一五月一日發行一（定價廿錢）
三輪田學士の男女戀愛觀
江原氏の法律上より見たる結婚
小出氏の布曲
長與博士 整理の要訣 胃腸養生法
其他肥滿して困る婦人に男子を手本と思ふ勿れ頭髮の釣合折に觸れたる感想重寶なる記憶法外數十篇
高島氏の家庭心理
江原氏の處世
小說小間使　渡邊霞亭
大懸賞
一等 大金時計　二等 上等帷衣　三等 紹帶地　四等 金指環　五等 銀時計　六等 秩父織　七等 勸業貯蓄債券　外數百點懸賞
當てたるもの、一切同十八日、洋細本誌六月廿日發行官報第五頁の假名字數を云
東京京橋區築地二丁目　國光社　發行

新流行澁向き
月印玉入無双形
羽織紐
紳士用　九十五錢　婦人用　三拾八錢
兩國藥研堀十九　富屋糸店　電話浪花三九三貳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎東京女子音樂傳習所の擴張　麹町區飯田町二丁目卅一の同所にては小學校教員及東京音樂學校入學志望者の爲めに音樂及び音樂理論、教授法等を講じ居たるが今回規模を擴張し設備を完全にし音樂の素養なきものも入學を許す由志望者は至急申出すべしと因に四月の新學期よりは教師をも増聘し英語を課することゝせり

◎伴傳商店　日本橋區通一丁目なる近江屋伴傳商店の發行せる注文の栞は菊判アートペーパ四十餘頁に寫眞數十個を挿入したる美しき册子にして飽くまで高尚なる意匠を凝し尚附錄として諸税法、郵便電信料金、鐵道小荷物賃金、各國度量衡器對照等日常必要の事項を簡明に摘記したるなど頗る氣のきゝたるものにして本誌讀者には郵税を要せず無代にて送呈すといふ、而して同店は彼の有名なる富士印縫目なし蚊帳の發賣元にて蚊帳の外各種蒲團、寢臺、室内裝飾品等を廉價に販賣し且進物用として最も適當なる體裁優美の商品共通切手をも發賣する由、蓋し同店營業法の懇切確實にして近來諸々事業の發展を見るに至れるは一般商人の範となすに足るべし

男女共に讀むべき婦人雜誌は本誌也

婦人世界

五月一日發行　三巻五號　一冊拾五錢郵税一錢五厘六冊郵税共九拾錢

娘も母も妻も夫も讀むべき　男女選擇論　村井弦齋
▲男子は如何なる妻を選ぶか ▲何故に美貌の婦人を選ぶか ▲何故に金滿家の娘を選ぶか ▲何故從順の婦人を選ぶか ▲理想の妻とは斯る者か ▲何故に箱入娘を選ぶか

◎斯くの如き良人は必ず失敗す…清風生
◎私は何故に再婚したるか…三輪田元道
◎若き婦人は家庭に何をなすべきか…山脇房子
◎外國婦人の見たる日本女學生の缺點…
◎流産の豫防　榊博士
◎不幸の結婚をなせし婦人…柳川春葉
◎美人に見える法…
◎子供を愛さぬ母親…乙訓
◎鐘淵紡績會社女工の生活
◎腦膜炎手當…醫學博士加藤
◎小説(摘草)…黒河内桂林
◎鯛の料理法…弦齋夫人

婦人世界臨時増刊　五月十日刊　食物かゞみ　一部拾五錢郵税壹錢五厘切手一割増
料理の心得　弦齋　病中病後肥瘦者の食物　諸國の名物料理二百(懸賞當選發表)

東京南紺屋町十二　實業之日本社　振替貯金三二六番　賣捌全國書店

特色　現社會の二大問題たる婦人と小兒に對し人類學的見地より根本的原始的に攻究說明したる唯一の大著述

婦人と小兒　理學博士坪井正五郎著

世評　婦人の化粧、服飾、婦人の仕事、親子の關係小兒の習慣動作等を記述したる書なり(讀賣新聞)

定價金八拾錢

掲載要目　▽日本婦人▽アイヌの女▽諸人種婦人の化粧▽配偶の撰擇▽夫婦の關係小兒習慣

隆文館　京橋區南鍋町一丁目二番地

御注意　縫目なし蚊帳は近頃粗製の類似品が澤山出來て居りますから完全なる品を購求な御望みの方は必ず「富士印」の商標に御注目を願ひます

營業品目
富士印縫目なし蚊帳
普通小幅布製蚊帳
蚊帳生地及附屬品
美好紗及舶來龜甲紗
座蒲團
夜具及各種蒲團
新式寢臺
浪花すだれ
室内裝飾品
和洋敷物
毛布膝掛馬車掛
麻布及緣布
匂ひ袋及懷中良劑
疊表及附屬品
柳行李

●伴傳商店は御進物として最も適當なる體裁よろしき商品共通切手を發賣致します
●伴傳商店に於て御購入の品は東京市内に限りすべて無賃にて速かに配達致します
●伴傳商店發行の美麗なる御注文の栞(營業案内)は御一報次第直ちに送呈致します
●伴傳商店は營業に關する御照會に對して返信料を要せず懇切なる回答を致します

東京市日本橋區通一丁目(木原店北角)
近江屋　伴傳商店　電話本局四二六番　長四三六番

東京市日本橋區通二丁目　振替貯金口座六一六一番
大文字屋　伴傳商店　電話本局一〇三一番

愛國婦人第百五十二號附錄

愛國婦人會京都支部幹事小肖

佩二等有功章（京都支部幹事）

羽室象子

佩一等有功章（京都支部幹事）

伊澤千年子

佩二等有功章及特別徽章（京都支部幹事）

牛井佐賀子

佩一等有功章（京都支部幹事）

八田艷子

佩二等有功章（京都支部幹事）

加藤千代子

佩二等有功章（京都支部幹事）

廣瀬みや子

佩二等有功章（京都支部幹事）

田邊直子

佩二等有功章（京都支部幹事）

菅鶴子

佩二等有功章（京都支部幹事）

小泉ます子

佩三等有功章（京都支部幹事）

越智清子

明治四十一年五月五日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人山瀬俊夫　編輯人水持德一　發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

IMPERIAL LIBRARY
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN